

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

池田地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金	100	協議会の運営に必要な庶務経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。							コミュニティ推進課 自治振興費
道路安全対策事業①	368	修繕料	368	城跡公園西門への登り口階段の手摺を増設し、見学者の安全を確保する。	城跡公園西門の階段に手すりがなく危険だった。	令和元年度実施時に諸事情により保留した部分の城跡公園西門への登り口階段の手摺りを増設した。	案に登れ、安全に下れるようになった。	各部署毎で評価(客観的な指標も用いた)協議会役員会で最終照査してまとめを行った。	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、イベント等実施できない事業が出てきたが、事務所の移転等に対応いただいたもの。さらなる事務局体制の強化に期待すると	手摺り設置により、階段利用者にに対する安全性が向上した。	土木管理課 交通対策費
道路安全対策事業②	3,177	修繕料	3,177	池田市の観光資源である城跡公園・阪急文庫・造形美術館等へのメインルートを中心に歩けるようグリーンベルトを設ける。	阪急文庫北側入口手前まで施行済一期、城跡公園まで延長し観光客の安全を確保する。	城跡公園まで延長175メートル延伸された。	・T字路まで延伸され歩行者の安全・安心がアップした。			グリーンベルトの設置に伴い、歩行者等の通行に対する安全性が向上した。	土木管理課 道路維持費
桜通り「石の彫刻」周辺環境整備事業	2,358	修繕料	2,358	桜通り「石の彫刻」の周辺環境について、観光資源の一翼を担うよう、雑草の繁茂を防止するなどの整備を行う。	・実施していない	・実施していない				令和2年度に国の交付金を活用した都市再生整備計画に基づき桜通りの整備を本事業予定範囲も含めて施工したため、本事業が不要となったもの。	公園みどり課 公園費
市民レクリエーション大会事業	400	行事報償金	400	校区実行委員会が主となり毎年、小学校運動場を会場としてコミュニケーションの拡充とスポーツ意識の向上に伴う健康づくりを目指す。	・実施していない	・実施していない				新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	生涯学習推進課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	116	補助金	116	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	継続事業(全戸配布)年1回発行	年1回の発行、配布	住民の評価が揃っていない。	提供する情報量が減少してきている。購読率が揃いきれないので来年度も発行回数を1回に減らす。		コロナ禍で実施できない事業がある中、実施事業についてわかりやすく掲載されている。購読率は困難かもしれないが、アンケートなどで地域住民の声を拾うことも検討してみても、購読率がわからないこと、回数を減らすことは切り分けて考えてはどうか。	広報シティプロモーション課 自治振興費
自主防災会合同防災訓練・リーダー養成支援事業	200	補助金	200	池小校区・自主防災組織連絡会の主導により14自主防災会が一同に会する防災訓練を実施し、また各防災会リーダーの養成を支援し、地域の人たちの防災意識の高揚を図ると共に他地域の人たちとの連携を図る。	13自主防災会が主導し、住民不参加で2回目の避難所運営リーダー養成訓練を実施。	・避難所の運営冊子を印刷 ・防災訓練及びリーダー養成支援は新型コロナウイルス感染症防止の為中止	新型コロナウイルス感染症防止の為、避難所の運営冊子の配布のみとなった。	コロナ禍の状況も踏まえ、可能であれば住民不参加の訓練は緊張感がとほしいので住民参加型の訓練に戻す。		コロナ禍において、防災訓練等は実施できなかったが、避難所の運用冊子の配布により、災害発生時に役立つことを期待	危機管理課 自治振興費
池田地域コミュニティ推進協議会事務所運営推進事業	941	補助金	941	協議会活動を円滑に行うため、事務作業の支援を行うほか、地域住民への啓発及び情報発信を行う。	・市立池田会館内に設置(平成23年度から) ・専属女性事務員1名、男性会員2名で運営。	・継続運営中。	全体の活動が集約・管理されている。			事務所の移転が必要となったが、対応いただき、継続して適切に運営いただいているものと認識。	コミュニティ推進課 自治振興費
まちかどサロン開設事業	96	補助金	96	地域内のさらなるコミュニティの向上を図り、住民の体調管理や健康の向上、維持を目的として、様々な催しを開催する。	・カラオケ教室 1回/月 ・麻雀教室(初心者) 2回/月 ・実施。	新型コロナウイルス感染症防止の為中止	・高齢者の集いの場として盛況 ・生き生きと見える。	・参加者の固定化 ・新型コロナウイルス感染症対策の強化		新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	コミュニティ推進課 自治振興費
自主上映会開催事業	90	補助金	90	地域で命、家族、生きることを考える機会を作り、命と家族の大切さを伝えることを目的として、「ドキュメンタリー映画『いるとどりの親子』」の上映会を開催する。	・「うまれる」を池田市立公民館に於いて、午前・午後各一回上映会を実施。 ・予定の半分程度の参加者(46名)。	新型コロナウイルス感染症防止の為中止				新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	人権・文化国際課 自治振興費
「ちいさな絵本館」推進事業	1,305	補助金	1,305	絵本の読み聞かせを通して地域住民の世代間交流を推進する。一冊の内容の充実(絵書・イベント・情報発信等)を図り、子どもたちの豊かな成長を応援する。	創立11年目を迎えた継続事業。	・新型コロナウイルスおよび市立図書館移転に伴い来館者数が減少している。 ・講演会は予定するも新型コロナウイルス感染症防止の為中止。	幼児連れの利用に特化された。(リピーターが多い)貸し出しによる効果。(家計・時間・絵本に接する機会増など) 子育て世代のコミュニケーションの場になっている。	近場に移転された市立図書館との棲み分け、しっかりとした感染防止対策を行い子育て世代のコミュニケーションの場として継続する。		コロナ禍により外出機会の減少がしている保護者のサポート等。地域ならではの特徴を活かした取組を期待している。また市立図書館との棲み分けを行いつつ、連携した取組も期待したい。	子育て支援課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

不用園芸土回収事業	66 補助金 66	不用園芸土の再生利用を目的として、経年劣化したビットカバーの更新を行う。	池田小学校区周辺に家庭の楠木鉢やプランタンなどからでる不用園芸土を処理、再生する場がなかった。	辻が池公園に処理用ピットの設備を設けて、月1度の不用園芸土の回収処理、再生を実施した。処理、再生作業はNPO法人フラワーネットワーク（代表者：西垣八十三氏）のボランティアによる。	不用園芸土の処分ができて、廃土の不法投棄防止、処理再生土の活用が可能となった。 ・月一度の実施利用者 平均15名	・不用園芸土の処理、再生の広報 ・処理作業の要員確保 ・ビットカバーなど設備の点検補修	持込量が可能な処分量を大きく上回り、需要と供給のバランスが取れておらず、公園に不用土が溢れる状況にある その現状を踏まえ、今後は地域と共に問題解決に向けて動いていく必要があると考える	公園みどり課 自治振興費
いけだ学園畑プロジェクト（MTP）等支援事業	170 補助金 170	池田中学校に設けたふれあい農園について、学生が主体となりながら運営を行う。また「平和のつどい」に参加し、児童との交流を図る。	・昨年度は豊作で幼稚園児のいもほりが実施できた。 ・池小平和のつどいに継続参加している。	例年通り行うも作業の一部が新型コロナウイルス感染防止の為中止になる。	・活動の輪が広がっている。	参加者の広がりも継続。	学生が主体となりふれあい農園を運営し、さらさら幼稚園児による手振り等交流することができた。	教育政策課 自治振興費
キッズランド支援事業	131 補助金 131	池田小学校で行われている「キッズランド」で使用する用品及び教材を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。	・ソフトバレーボール 50 ・ソフトビニールボール 60 ・シャトルコック 30 ・バドミントンラケット 2 を購入。	新型コロナウイルス感染防止の為中止		・子どもたちに大切にしようという、使用後の整備等を通じて指導していく。	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	教育センター 自治振興費
計	9,518	事業提案限度額 11,878千円	次年度繰越金額 2,360千円					

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

秦野地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100		協議会の運営に必要な庶務的経費のため、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。							コミュニティ推進課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	140	電気使用料 24 設備保守点検委託料 116	安全で安心な暮らしの実現に向け設置した防犯カメラの維持管理を行う。	交差点での事故・事件に関する情報収集の手段がなかった。	交差点での情報収集ができるようになった。	防犯カメラがあることにより、事件の抑止効果が期待できる。また、事故があった時に客観的な情報源になっている。	監視地域のカバー率がUPしたが、まだカバーできていない地域が3割ほどある。今後の課題として池田市警察と協議を詰めていきたい。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。	令和2年度は新型コロナウイルスの影響で、なかなか思うように事業が実施できなかったと思うが、その中でも工夫をしながら活動いただいたものと認識するところ。また、自主防災の動きが活性化しているものと評価するところ。	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む	危機管理課 自治振興費
地域防災体制強化等事業①	1,619	修繕料 1,529 補助金 90	渋谷公園内に防災備蓄倉庫を設置し、自主防災活動の拠点づくりを目指す。	地域内で使用する備品および、防災備品の倉庫がなかった	備品の整理ができ、今後の購入予定の防災備品の収納スペースを確保できた	秦野地域の防災拠点とし、自主防災組織の立ち上げを支援できる	防災倉庫を中心としてさらに活動を支援するとともに地域住民の自主防災意識の向上をめざす 防災倉庫を中心としてさらに活動を支援するとともに地域住民の自主防災意識の向上をめざす			災害時に備えた備品整備を評価するとともに、今後の自主防災組織立上げの促進に期待	危機管理課 災害対策費/自治振興費
地域掲示板設置事業	48	パネルセンター活用事業委託料 48	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるための掲示板を、地域団体と共に使用するともに維持・管理・運営を行う。	ガラス張りにした掲示板の清掃が行き届いていない	シルバー人材センターに年2回清掃を委託した	清掃することによって見やすくなった	掲示板の管理について地域住民と考えていきたい			掲示板の清掃を行い適切に管理いただいており、地域情報の広報に有効な手段となっているものと評価。	コミュニティ推進課 自治振興費
地域ギャラリー維持管理事業	298	修繕料 248 補助金 50	コミュニティ事業の情報発信、地域住民の作品掲載、地域行事等の広報を行うためギャラリー掲示板の維持管理を行う。	ギャラリー設置から10年以上経過し、毎月作品入れ替え時に清掃しているが、背板に汚れが目立っていた	1か月ごとに作品を入れ替えている	1か月ごとに作品の入れ替えを継続	季節感のある作品もあり、足を留めて見ているかもある	前面のガラスの開け閉めがスムーズにできるように清掃が改修が必要と思われる		ギャラリーがリニューアルされ、管理上の利便性が向上するとともに一層の活用が図られているものと認識	コミュニティ推進課 自治振興費
AED管理事業	52	消耗品費 52	地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	地域内会館に設置したAEDの消耗品交換の必要性がある	AEDバッテリーとパッドの交換	AEDバッテリー・パッド交換した	地域住民へAED講習会などへの参加の呼びかけ			共同利用施設にAEDを配置することで、多くの住民の安心感を得ることが出来ると思える。今後とも引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていきたい。	健康増進課 保健衛生総務費
秦野小学校金管クラブ支援事業	195	校用器具費 195	秦野小学校の金管クラブの楽器更新を支援し、子どもたちの意欲向上をとし、地域と小学校の交流を促進する。	秦野小学校の金管クラブの楽器が古くなり演奏に支障をきたす	ドラムセットの購入	秦野小学校の金管クラブの楽器を購入したことにより演奏しやすくなり子どもたちの意欲向上を促進できた。	教育委員会と協議し必要な備品整備に協力し、子供達の健全な育成に貢献していきたい。教育委員会とのコミュニケーションをより強化していきたい。			使用可能な楽器の一層の充実により、生徒の演奏技術の向上に繋がった。	総務・学務課 学校管理費
秦野小学校体育館整備事業	522	校用器具費 202 補助金 325	秦野小学校体育館入り口にスロープを設置し、車椅子が入れるよう環境整備を行う。また、地域諸団体が利用しやすいよう備品を整備する。	秦野小学校の体育館の備品等古くなり更新が必要	秦野小学校の体育館入り口にスロープを作った	清掃用具入れ、バレーボール（アンテナ、ネット）扇風機を購入	清掃用具の整理整頓、地域のスポーツ活動の支援、体育館の利用者に喜ばれている	体育館の備品について適宜更新の必要があると考える。		老朽化した備品の再整備、快適に利用してもらうための環境整備を実施することにより、安全に体育活動を行うことが可能となった。	総務・学務課 学校管理費/自治振興費
市民レクリエーション大会事業	280	行事報償金 280	地域のスポーツ振興会と子供会等の地域団体が開催する事業を支援する。	毎年度地域の協力も受け、レクリエーション大会の準備・補助を行っている。	開催なし		自治会、こども会入会者の減少は止まらない。今後とも地域住民の参加率向上を図り、自治会、こども会等の発展につなげていきたい。			新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	生涯学習推進課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	432	補助金 432	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	「秦野まちづくりだより」は年間行事等説明文が多い。写真をより多く見やすいものにし、行事にはより広くわかりやすい記事内容に努めた。	年3回発行することが定着してきたが、今年度は2回の発行となった。地域での認知度は高まり協力者及び参加者が増えている。	わかりやすい紙面づくりは好評で関心や認知度も上昇している。地域行事の内容も写真も使い、より詳しく伝えることで地域内の活性化につながっている。	今後も活動のPRを進めて地域住民とのコミュニケーションを向上させていきたい。協議会の会員の募集も奮め、啓もう活動及び行事参加者増加に努めたい。		写真が多く、デザインも統一感があり非常に見やすい。スペースの都合上難しいと思うが、各写真に簡単な説明があると読み応えが増すと考える。今後も地域に密着した誌面作成に期待。	広報シティプロモーション課 自治振興費	
地域防災体制強化等事業②	1,043	補助金 1,043	南畑公園に設置した防災備蓄倉庫を活用するため、収納用品を整備する。	自主防災備品の充実	防災備品購入	防災備品が充実したことにより、自主防災組織の士気を高め、地域住民への広報に尽力できる	防災倉庫を中心としてさらに活動を支援するとともに地域住民の自主防災意識の向上をめざす			災害時に備えた取組を評価し、実際に災害が起こった際の自助・共助の推進に期待	危機管理課 自治振興費
合同防災訓練事業	100	補助金 100	小学校児童と地域住民が合同で防災訓練を行い、防災意識を高めるとともに地域住民と交流を図る。	秦野小学校3年生、4年生児童、保護者、南畑公園自主防災会合同防災訓練を支援する	合同防災訓練は実施なし、プライベートテントを購入	避難場所でのプライベートスペースを確保するために、テントを購入した	防災訓練時にテントの設置の訓練を行う			コロナ禍において、災害時に備えた備品整備を評価するとともに、今後、災害時にスムーズな運用ができるよう訓練を実施することを望む	危機管理課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

地域内会館備品整備事業	22	補助金	22	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	高齢者が和室を使用の際、畳に座れず不便であった	高さのある座椅子の購入	立ち上がりやすくなり好評である	公共施設の備品の運営・維持・管理をより一層充実していきたい。	地域利用者の視点から有効な備品整備が図られたもの。	コミュニティ推進課 自治振興費
はたのひろば兼事務所管理運営事業	1,160	補助金	1,160	地域内のコミュニケーションを密にすると共にコミュニティ会員相互の事務の効率化を図るため開設したはたのひろば兼事務所について、管理運営を行う。	はたのひろば兼事務所の平日開所の継続	コロナのため、4、5月は休館、6月以降は入り口に非接触の体温計、アルコールを置いて感染対策を施して週に2~3日の開館となった。	会員の会議・打ち合わせ以外に地域の人でも来所しやすくなり、立ち寄る方も増えた。はたのひろばを利用したミニイベントの開催も盛況である	コミュニティ活動の拠点施設として事務所機能を充実させるとともに地域住民・地域団体の利用も促進していく。	コロナ禍の下、難しい状況が続くが、コミュニティの活性化のために大きな意義があるものと認識。	コミュニティ推進課 自治振興費
校区盆踊り大会事業	200	補助金	200	スポーツ振興会と子供会等の共同開催である盆踊りを支援する。コミュニティ意識の高揚を図る。	スポーツ振興会・子ども会等で開催している。コミュニティ意識の高揚をはかる為に積極的に支援をする。	コロナのため実施なし	コロナのため実施なし	踊りや太鼓の継承、参加する側から開催する側への転換期の支援など	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 自治振興費
地域イベント活性化推進事業	1,293	補助金	1,293	地域の交流と地域活性化を図るため、フリーマーケット及び地域活動を推進・支援していく。	イベント必要物品の不足 安全対策の不足	扱いやすい備品の整備、古く汚れていたテントの天幕を購入。 コロナの為、あおぞらdeはたのフェスタは実施せず。	イベント備品は軽量のものが増え、必要なものもそろってきている。	備品の維持管理、使用頻度が高く傷んでいる備品の買い替え時期の検討。貸し出し備品の充実	適切な管理のもと、長期的に利用できるように期待	空港・観光課 自治振興費
健康啓発講座開催事業	50	補助金	50	運動による認知予防講座及び正しい知識と対処法、予防法等を啓発するための講座を開催する。	健康講座・イベントがなかった	コロナのため実施なし	コロナのため実施なし	定期開催や参加しやすい環境づくりなど幅広い年齢層に参加いただけるよう企画していきたい	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	地域支援課 自治振興費
秦野地域花いっぱい運動支援事業	80	補助金	80	地域と学校が一緒に花を育て緑化を進め笑顔のある地域にしていく。	毎年渋谷中学校・地域の各団体と連携して行っている。	コロナのため地域住民との活動は出来なかったが、渋谷中学校の生徒が花を育てるための、花苗・土などを支援した。	校内が花いっぱいになった	今後も継続的に支援し、地域に還元して花があふれる街を目指していきたい。	公園みどり課 自治振興費	
自然学習講習会・昆虫育成事業	100	補助金	100	地域特有の自然と触れあい、自然を学び、幼虫育成により親子のふれあいの場を提供する。	平成22年度から継続事業。カブト虫養育場での幼虫飼育、腐葉土の入替用意。	養育場の腐葉土の入替を行った。 コロナの為、講習会は実施せず	養育場の土の入替をすることにより、自然のかぶと虫の産卵場所に最適となる	かぶと虫の養育を通じて今後も子供達に自然の大切さを訴えていきたい。	昆虫飼育や触れ合いにより、子供たちの大切な自然学習の場となっている	公園みどり課 自治振興費
秦野地域うたいっぴい運動支援事業	300	補助金	300	秦野小学校区の子どもたちの聖歌隊が町の中を練り歩き、秦野小学校でコンサートを実施、歌うことにより学年を超えて友情の絆を深め、地域内の交流を深める。	通年での合唱団の活動支援。12月にキャロリング＆小さなクリスマスコンサートの実施。	コロナのため実施なし。	コロナのため実施なし	団員の拡充と広報活動の強化。	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	教育センター 自治振興費
キッズランド支援事業	30	補助金	30	秦野小学校で開設された「秦っ子キッズランド」で使用する用品及び教材を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。	キッズランドでの文具、消耗品の不足。	文具や教材、道具等の購入、買換え。	遊びの幅が広がり、楽しんで過ごしている。	まだ文具等が足りないし古くなっているため、継続的に支援する必要がある。	文具・教材の不足、劣化が著明だったが、本支援により、キッズランド運営効率の向上に寄与。	教育センター 自治振興費
地域内子ども会等活動支援事業	655	補助金	655	校区内で子ども会等の育成を行い、協議会と子ども会が協働して取組を行う。	長野県より雪30トン搬入して秦野小学校グラウンドにて雪あそび。	コロナの為実施できず	コロナの為実施できず	魅力ある子ども会になるよう支援する。未就学児を持つ親を地域の子ども会にどのようなつなげていくか。子ども達が自然にふれ合える機会を増やしていきたい	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	教育センター 自治振興費
計	8,724			事業提案限度額	9,214千円	次年度繰越金額	490千円			

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

北豊島地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100									コミュニティ推進課 自治振興費
防犯カメラ新規設置事業	81	電気使用料 3 機器借上料 78	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	北豊島地域において、細細路のひたたり等街頭防犯の被害防止を図る。	防犯カメラの設置(1基…豊島北1丁目15番地付近)	防犯カメラの設置により、未然に犯罪の防止に寄与する。	北豊島地域において、街の死角となる部分があるので、これらの部分での犯罪を防止を図るため設置要望を続けて行く。	各部署でまとめられていたものを役員会で決定する。	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの補助金事業が実施できなかったが、拠点であるきたてしまプラザの機能充実が図られており、感染対策を取りながら、さらなる発展に期待するところ。	必要箇所に通称に設置していること、市域の治安維持に貢献したことを評価	危機管理課 自治振興費
地域掲示板設置事業	250	修繕料 250	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板を設置する。また、地域団体と共に使用出来るようにする。	校区の行事等自治会に入っている人には知られるが、入っていない人達に知らせる事が出来ない状況であった	掲示板設置により、校区の行事等を知ることが出来る。住民の方々も見て下さっている	掲示板を見たという人が多く見られ効果は有ると確信している	校区でも離れた地域の人に特に知ってもらいたいため設置したいが管理者を見つけないに困難な面も有る。				コミュニティ推進課 自治振興費
きたてしまプラザ活用事業	4,516	庁用器具費2,000 補助金 2,516	地域住民相互の交流の拠点として住民対象の文化教室、子育て支援活動、また中学生学力向上のために「池田ふくまるはばたき塾」開講支援等を行う。また、高齢者等憩いの場としての談話室の使用活動を行う。	きたてしまプラザを地域住民相互の交流拠点として、住民対象の文化教室、子育て支援活動が出来る。池田ふくまるはばたき塾の開講支援、空調機教室を準備し、来年度本格的に高齢者等憩いの場、談話室が誕生し、有効活用している。3階大会議室の机椅子が旧型で重く、移動に困難。	今年度はコロナ感染防止の影響で2か月間閉館となり、年間利用者数5,869名と激減したが協議会拠点施設は地域住民相互交流の場として文化教室、きたてしま文庫、子育て支援場所、談話室(利用者177名)地域中学生学習支援会場(ふくまるはばたき塾632名減少)として活用する。3階大会議室の机、椅子を軽く移動が楽になった。	当協議会の拠点として、地域住民にも認知され、利用者も多くなってきています。特に大会議室でイベント等実施する場合机椅子の移動が楽になり、利用者から喜ばれている。	今後も多くの地域住民に利用される協議会拠点として運営していきたい。			総務課 財産管理費/自治振興費	
防犯灯強化事業	1,425	修繕料 1,425	安全・安心なまちづくりの一環として、夜間の広場を明るくし、防犯対策強化を目的に防犯灯を整備する。	ソーラー・LED照明灯(1基)設置工事。設置場所…北今在家広場(豊島野公園・花園1丁目第2公園、北森木公園よりの展開)現在の照明は非常に老朽化しており、治安面での不安有。又非常時には、地下にある貯水槽の活用と一時避難場所としても大いに役立つと考える。	8/25に設置完了。ソーラー街路灯の効果は大きく、治安は勿論ながら、災害時の避難場所としての効果が期待できる。地域住民への「太陽光活用による、屋外用LED照明」設置における効果大。	・設置後の環境の変化を積極PR導入展開活動 ・コミュニティ協議会としての導入取組みPR活動に貢献することを期待。説明用プレート設置、広報誌での紹介を実施した。	・設置場所に対する近隣住民とのトラブル防止の為に十分話し合う。 ・定期チェックを実施し、状況確認を定期化する。 ・初期不良等の確認を実施。			総務課 財産管理費	
地域行事活動促進事業①	35	行事報償金 35	地域行事(校区盆踊り大会等)に必要な備品の支援を行い、地域内行事の活性化を促す。	各地域の住民が集まり、イベント(盆踊り、秋祭り)を実施するも予算が限られ運営に苦慮している現状。	コロナ感染防止の影響で今年度は各地区中止に追い込まれた。	なし。	今後も継続して地域活動を応援していきたい。				空港・観光課 自治振興費
AED管理事業	19	消耗品費 19	地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	設置前は高齢者の集まりの多い会館等では利用者及びスタッフが不安をかかえていた	幸いに使用する事もなくなるが設置しているだけで安心感がある。	設置して良かった。	今一度有事の時の使用の研修を行い使い方を身につけておきたい。				健康増進課 保健衛生総務費
街路灯強化事業	57	電気使用料 12 修繕料 45	安全・安心なまちづくりの一環として防犯対策強化を目的に街路灯を整備する。	北豊島地域において、道路照明が不十分なところがあり、また道路狭小など道路交通、防犯上問題があった。	通学路や交通量の多い狭い道路の照明が不十分であると思われるところの交通安全を図る。	道路照明を設置ならびに灯器のリニューアルにより、夜間でも明るく安心して通行でき交通安全が図れた。	まだまだ、狭い道路で道路照明の設置が必要であるため、年次ごとに設置を進めていく。				土木管理課 交通対策費
道路安全対策事業	2,167	修繕料 2,167	児童が登下校の際に利用する通学路にグリーンベルトを設置し、児童の安全を確保する。	北豊島小学校区周辺道路において、十分な歩車分離が出来ている道路が少なく、また通過車両が多いため、通学時の児童の交通安全確保に問題がある。	北豊島小学校区周辺道路で、通学路の指定を受けている道路の路側に側線並びにグリーン舗装した。	北豊島小学校区周辺通学路の路側にグリーン舗装することにより、通過車両等の運転手の注意喚起することができた。	北豊島小学校区周辺道路の登・下校時の児童の安全確保を図ると共に、これらを迎える高齢化社会・ハンディキャップをもつた人への対策として、安全標や交差点表示や点字ブロック等の設置等も要望していきたい。				土木管理課 道路維持費
市民レクリエーション大会事業	150	行事報償金 150	住民間のコミュニケーションを図る、校区レクリエーション大会に必要な備品の購入を行う。	コロナ禍の為、事業未実施。							生涯学習推進課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	420	補助金 420	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地域コミュニティ推進協議会の活動が地域住民から認知されるためには広報活動に力を入れる必要がある。そのために内容豊富な紙面づくり、回数を重ねた発行が重要であると考えていた。	コロナ禍にあって、会館の閉鎖、活動の休止などがありコミュニティ紙の豊富な紙面づくりは望めなかった。また発行の回数も多くは望めなかった。	コミュニティ紙の編集作業が発行日の1ヶ月前で切となるため活動行事の案内に新鮮味が欠ける。そのために広報活動としての効果はうすくなる。	編集作業のメ切りを半月前くらいにちぢめたい。			広報シティプロモーション課 自治振興費	
防災訓練開催事業	20	補助金 20	協議会拠点でもあり、各種教室等で多くの人たちが集まるきたてしまプラザでの非常時に対する防災訓練を行う。	北豊島地域において、予想される「東南海地震、地球温暖化に伴う異常気象による局地的豪雨等の災害に備える必要がある。	コロナ禍により、事業未実施	幼児から高齢者に防災に対する認識を深めたい。	防災は、地震・大雨・火災等と様々なものがあるので、それぞれに沿った防災講習を行ってほしい。				危機管理課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

きたてしまプラザまつり事業	55	補助金	55	協議会の活動状況を年に1回、地域住民に広くPRすることを目的として祭典を開催する。	コロナ過の為、事業未実施。			
地域行事活動促進事業②	40	補助金	40	地域行事（校区秋祭り等）に必要な備品等の支援を行い、地域内行事の活性化を促す。	各地域の住民が集まり、イベント（盆踊り 秋祭り）を実施するも予算が限られ運営に苦慮している現状。	コロナ感染防止の影響で今年度は各地区中止に追い込まれた。	なし。	今後も継続して地域活動を応援していきたい。
環境美化ウォーキング事業	39	補助金	39	継続的に地域の清掃活動を行うために必要な用具を購入し、子どもたちを含む地域住民が地域美化運動を展開する。	北豊島地域内の環境改善の為、地域を分割しゴミ等を拾いながら、ウォーキングを通じて、「ゴミの発生場所と分析」を実施！ゴミ削減美化活動と健康・地域交流を行う。地域住民と協力、ゴミを出さない為の啓蒙活動を強化する。<コロナの猛威収まらず、状況確認対策次第。>	本年年度の「環境美化ウォーキング事業は2回とも中止」とする。予定・第1回9月「荘園地区」、第2回R3/3月「豊島北地区」2回/年<中止理由> ・コロナウイルスの拡散は収まらず、益々活発化の為。 ・市の方針に合わせ「3密（密閉、密集、密接）回避厳守」 ・令和2/2/28 池田市新型コロナウイルス感染症対策本部会議を設置。 ・4/7 大阪府内に緊急事態宣言発令 ・～6/1 プラザ閉館 ・令和3/1/7、再度緊急事態宣言発令 ・市内公式行事すべて中止等との兼ね合いにより、参加者の生命最優先と考える。 <実施時の目標> 「ゴミ分析データ表作成と啓蒙（市発行）看板の設置」をお重点的に、環境にやさしい街づくりを目指す。地区への活動浸透活動の効果確認。	ウォーキングにより、・気持ち（爽快感）・見る目の変化・四季の変化を肌で感じ、地域の変化を感じる。 ・小学生の参加により継続性を期待したが、次回へ持ち越します。	・コロナ対応を心掛けた事業活動を計画。 ・子供～高齢者まで、安全で安心な活動を立案し継続を心がける。
環境にやさしいエコクッキング講習会開催事業	40	補助金	40	楽しい食事ができ、環境に配慮した家計に優しいエコクッキング講習会を開催する。	「第八回エコクッキング」1回/年間 計画野菜ソムリエによるくキッチンからできる地球への思いやり>をテーマに、毎日の食材調達から料理、そして楽しい食事、後片付けまで環境に配慮する（エコロジー）だけでなく、家計にも優しい「エコノミー」これからのクッキング・スタイルを先取りする。イベントよりエコを吸収し、各家庭・地域への拡散期待。	本年度は〔中止〕 8月or12月 実施予定（1回/年） <中止理由> 講師より辞退の申し出による。 ・コロナウイルスの拡散は収まらず、益々活発化の為。 ・市の方針に合わせ「3密（密閉、密集、密接）回避厳守」 ・4/7 大阪府内に緊急事態宣言発令 ・～6/1 プラザ閉館 ・令和3/1/7、再度緊急事態宣言発令 ・市内公式行事すべて中止等との兼ね合いにより、参加者の生命最優先と考える。	<下記効果を期待したが、来年度に持ち越しとする。> 「食材の調達～調理～食事時の努力～後片付け」まで一貫した、エコロジーを身をもって実践。	日頃何もなくやっていることであるが、新鮮な感覚にて自然に身につけてもらう。季節感を考慮。【継続が重要課題】
環境講演会開催事業	50	補助金	50	様々な環境問題を定義し、解決策を考える場をもつため、講演会を開催する。	「環境テーマ講演会」定期開催 ・テーマをらび。 ・全体像の掴み方。 ・テーマの方向絞り込み。	本年度は〔中止〕 8月、12月 実施予定（2回/年） <中止理由> 講師より辞退の申し出による。 ・コロナウイルスの拡散は収まらず、益々活発化の為。 ・市の方針に合わせ「3密（密閉、密集、密接）回避厳守」 ・市内公式行事すべて中止 等との兼ね合いにより、参加者の生命最優先と考える。 「環境問題」をテーマに下記内容により講演願う。【講師は都度】 ・どのような活動が行われているのか？ ・どのような問題があるのか？・自分たちでできることは何か？を学ぶ予定であった。	ヒントを講演より見つけ、テーマが決まれば情報収集へ移る予定であった。	講演会実施後の効果確認が重要である為、実施後の経過確認発表会の実施を行える様にと興味を持ってもらう。次回には実施したい。
地域医療講座開講事業	10	補助金	10	高齢社会に向けて、認知症等の防止・改善等に対する講座を開催する。	コロナウイルス感染拡大の為に実施不可能でした			コロナウイルス感染症の終息したら再開の予定。
子育て支援事業	658	補助金	658	あそびの広場（年間48回）を開催し、紙芝居や絵本、TVシアター等親子のふれあい遊びと子育ての悩み等を関係者とともに語り合う。	コロナ禍の中4月5月は「あそびの広場」をお休みしました。6月～10月までは午前の部「5組」午後の部「5組」の予約制を実施しました。11月～3月までは午前の部「10組」午後の部「10組」の予約を増して実施しました。ベビーマッサージ・ランチタイム、おやつタイムは中止しました。	開催中は3密を避け、常時、部屋の開放、換気、オゾン殺菌、消毒、手洗いの励行を行いつつ実施しました。事業は、スイカわり、運動会を中止し、クリスマスはドライブスルー方式でサンタさんからプレゼントをもらう形で実施しました。	組数限定の予約制でも、毎週木曜日を親子で楽しみに、ほぼ同じ人達が集まり、親同士の情報交換の場になっていました。	コロナ禍が終息するまで、感染対策を徹底して「あそびの広場」を実施していきます。

新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 自治振興費
新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 自治振興費
新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	環境政策課 自治振興費
新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	環境政策課 自治振興費
新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	環境政策課 自治振興費
新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	地域支援課 自治振興費
親子の交流の場として地域に定着していると評価。引き続き感染症対策を徹底しながら、コロナ禍でできる取組を実施してほしい。校区内に新規開設した地域子育て支援拠点と連携した取組を期待している。	子育て支援課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

北豊島地域花いっぱい整備事業	110	補助金 110	地域の子ども達が安全に遊べる場の提供として、豊島北2丁目公園に花壇を作り花を育て、地域住民の憩いの場とする。また北小生が育てた花を地域の施設に配布し、地域全体に潤いをもたらす。	豊島北二丁目公園にて「地域の高齢者休憩所、幼い子供たちの遊び場、若いお母さんへの憩いの場を提供」し、多くの方の参加により環境改善四季の花の移り変わりを肌で感じてもらう。維持を継続していく。地球温暖化の影響による暑さ対策急務。	6/20、11/14 の2回/年 実施 場所…豊島北二丁目公園 園芸高校の先生/生徒さんの指導を受け、花壇に季節にあった草花を植え替える。	地域・季節における美化活動への意識付けをPRする。花の植え方・育て方等の実地講習を受け、花を可愛がる人の心に潤いを与え、子供が安心して遊べる安全で清潔な公園と喜ばれ。自動散水システム導入効果絶大。幸い花泥棒も減り、効果が出てきた模様。	子供から高齢者まで、安心して和やかに過ごせる場所の確保。 年2回の花植え実施に園芸高校の先生/生徒さん・地域住民の皆さんの一層の協力を今後もいただく事が必要。 近隣の方の積極参加をいただける様努力する。花壇の維持管理を行う。花泥棒が減ったが、注意喚起を怠らない。		地域と園芸高校との繋がりを深め、地域の方々に安心と潤いの場を提供できた	公園みどり課 自治振興費
豊島東公園及びバスケットコート維持管理事業	310	補助金 310	バスケットボール等を通じて、青少年の健全な育成を図るとともに地域住民の憩いの場を提供する。	中国道リニューアル工事の資材置き場になったため、令和2年6月よりバスケットコートが閉鎖となり使用できなくなった。	バスケット人気が高く、2ヶ月間でも沢山の利用者がいた。				中国道リニューアル工事により、バスケット施設を撤去している。 今後本事業を継続するかについては、地域コミュニティ推進協議会の意向を踏まえた上で決める必要がある	公園みどり課 自治振興費
計	10,561		事業提案限度額 10,561千円	次年度繰越金額 0千円						

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

これは地域コミュニティ推進協議会		説明		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)	
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金	100	協議会の運営に必要な庶務経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課 自治振興費	
青パト隊パトロール活動事業	2,354	修繕料 手数料38 俵検料26 自動車重量税 2,070 補助金205		青パト隊による地域巡回活動を行い、各種犯罪の抑止に努め、安全な地域環境をつくる。	青パトでの呉服小学校区内巡回パトロール実施により、各種犯罪の抑止効果を図る。	呉服会館敷地内に設置した青パト駐車場を拠点に、隊員による巡回回数や巡回範囲の拡充を図ることで地域の安全確保ができていた。	呉服小学校区内の細い道まで巡回範囲を広げることにより、各種犯罪の抑止効果に車両を活用できた。	より一層の巡回活動の充実を図る。	各事業責任者の意見を聴き、協議会で決定する。	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、イベントが実施できなかったが、地域内の会館や学校園などの備品整備が進んだものと認識するところ。	今後も引き続きパトロール活動の強化に努めていただきたい	危機管理課 一般管理費/自治振興費	
地域内会館設備改修事業	706	修繕料 補助金	517 189	地域内会館の設備改修を行い、利便性を向上させる。	地域内における会館施設の設備が老朽化している。	地域内における会館施設の設備を改修し地域住民の利便性を向上させることにより、利用者の賛辞の声を届いた。	老朽化した設備を改装することにより高齢者も利用しやすいとなり大いに歓迎されている。	他の共同利用施設等の設備も改修を検討していきたい。				地域利用者の視点から有効な会館改修が図れたもの。	コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費/自治振興費
地域掲示板設置事業	1,296	修繕料	1,296	老朽化した地域の掲示板を取り替え、地域団体と共に使用出来るようにする。	地域内にある掲示板の老朽化が激しいため、広報活動に支障があった。	老朽化した掲示板に変わり、新たに設置した掲示板は、ワイドで大きなポスターも充分張ることができ、住民からも賛辞の声があった。	ワイドで見やすい掲示板に付け替えたため、地域の広報活動が活発化した。	地域のお知らせや地域コミュニティ推進協議会の活動も、この掲示板を通して地域住民に広く知らせることができる。今後も広報活動の充実を図る。				前年に続き各自治会と連携の上、地域情報の広報手段の拡大に寄与した。	コミュニティ推進課 自治振興費
街路灯強化事業	59	電気使用料 修繕料	14 45	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、街路灯の設置及び維持管理を行う。	地域内の街並みでうす暗い道路等に街路灯を設置し、安全確保に努めている。	地域内に街路灯を設置することにより、夜間の安全を確保することができた。	市民が通行する道路に街路灯を設置したことで、地域住民から安心して夜間の通行ができるとの喜びの声が聞こえてきた。	地域内のうす暗い場所等に安全確保のため、街路灯の設置を進めていきたい。				街路灯の設置に伴い、夜間通行の安全性が向上した。	土木管理課 交通対策費
道路安全対策事業①	365	修繕料	365	歩行者の安全の確保するため、見通しの悪い交差点にカーブミラーを設置する。	交通事故等の危険をはらんでいる交差点に安全な施策を推進して事故の防止を図る。	カーブミラーの設置により、安全性が向上した。	カーブミラーの設置により、子どもやお年寄りを交通事故から守れるようになった。	地域内には、まだまだ危険な箇所が存在しているため、カーブミラーの設置を順次検討していきたい。				道路反対側の設置に伴い、通行の安全性が向上した。	土木管理課 交通対策費
道路安全対策事業②	399	修繕料 補助金	99 300	児童が登下校の際に利用する通学路にグリーンベルト・転落防止柵を設置し、児童の安全を確保する。	児童が登下校の際に利用する通学路に、交通安全の激しい危険な箇所があり、交通事故が発生しないかと気になっていた。	転落防止柵を設置により、安全性が向上した。	転落防止柵を設置により、子どもやお年寄りを転落から守れるようになった。	地域内には、まだまだ危険な箇所があるので、順次設置に向けて対応したい。				転落防止柵の設置に伴い、通行の安全性が向上した。	土木管理課 道路維持費/自治振興費
呉小吹奏楽クラブ支援事業	506	校用器具費	506	呉小吹奏楽クラブの楽器購入を支援する。団体の活動支援を行う。	呉服小学校の吹奏楽クラブの楽器が老朽化して、正確な音程を出せない状態である。	老朽化した楽器を新規購入することで、古い楽器を新しく入ってくる児童の練習用に活用している。	新しい楽器演奏で技術の向上に役立つとともに、練習用の楽器ができたことで更なるレベルアップが図れる。	年々老朽化する楽器を計画的に買い替えることがこれからも必要と思われる。				使用可能な楽器の層の充実により、生徒の演奏技術の向上に繋がった。	総務・学務課 一般管理費
市民レクリエーション大会事業	350	行事報償金	350	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。コミュニティ意識の向上に努める。	地域のスポーツ振興会が開催している市民レクリエーション大会を支援する。	コロナ禍のため、実施出来なかった。	他地域の行事報償費とも検討し、校区の市民レクリエーション大会が活性化しよう努める。					新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	生涯学習推進課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	517	補助金	517	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民に知らすため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	協議会の存在や活動内容について、地域全体に広報することで理解してもらっている。	コロナ禍のため、発行出来なかった。	今後も益々内容の充実を図り、毎年実施している事業のお知らせや協議会への参加を促進していきたい。					新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	広報シティプロモーション課 自治振興費
地域防災体制強化等事業	778	補助金	778	近年多発する災害等による停電に備えるため発電機等を購入する。	災害等に備え、地域住民の安全対策を行いたい。	災害対策として発電機等を備えた。	もしもの時に対応できるように備えが出来、地域住民に少しでも安心してもらえた。	災害時に必要な備品をそろえていきたい。				過去の災害の教訓を生かした事業内容を評価	危機管理課 自治振興費
合同防災訓練事業	183	補助金	183	不慮の災害時、地域住民と協力し難局を乗り越えられるよう、住民相互による協力関係を構築するため、呉服小学校区内の合同防災訓練を実施する。	校区内での防災訓練は、8自治会で実施して、実際の災害が発生した場合を想定した上で、地域住民同士が一体感を得ることができた。	コロナ禍のため、実施出来なかったが避難時に有効な備品整備をした。	各自自治会にとでも感謝された。	防災訓練の内容をより充実させることにより、地域住民との信頼関係をさらに向上させること課題と思える。				災害時に備えた備品整備を評価し、今後、災害に向けた自動・共助の推進に期待	危機管理課 自治振興費
地域コミュニティ推進協議会拠点管理運営事業	2,355	補助金	2,355	呉服会館を地域コミュニティの拠点施設として管理運営を図る。	共同利用施設呉服会館の一室を地域コミュニティ推進協議会の活動拠点として、備品の整備を進めている。	地域コミュニティの拠点として、地域活動の活性化が図られた。	協議会における役員会や各部会の活動が活発に展開され、地域分権推進に大いに役立っている。	小会議室の再整備と備品購入で協議会活動の更なる活性化を図る。				コロナ禍の下、難しい状況が続くが、コミュニティの活性化のために大きな意義があるものと認識。	コミュニティ推進課 自治振興費
地域内会館備品整備事業	273	補助金	273	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	地域内にある会館施設の備品が老朽化していて安全面で不安がある。	共同利用施設の老朽化した備品を新規に買い換える。改装、装備することにより、利用者の賛辞の声を届いた。	老朽化した備品を新規に買い換える、改装、装備することにより企画行事が円滑になり大いに歓迎されている。	他の共同利用施設等の備品も買い換えを検討していきたい。				細かい備品の整備が多いため、しっかりと管理をお願いするところ。	コミュニティ推進課 自治振興費
地域イベント備品整備事業	100	補助金	100	地域で開催されるイベント等に使用する備品を整備し、地域の活性化を図る。	地域内のイベント備品を利用者からの要望があったので購入した。	コロナ禍のため、実施出来なかった。	必要なものを厳選して、購入していきたい。					新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 自治振興費
これは祭り開催事業	650	補助金	650	これは祭りを各種団体と協働で開催する。地域の人と人との繋がりを深め地域コミュニティの活性化を図る。	これは地域内のコミュニケーションの充実を図ることを目的に合同で祭りを開催する。	コロナ禍のため、実施出来なかった。	地域内のコミュニケーションを今後も積極的に図り、地域のつながりを広げていきたい。					新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

リユース活動事業	60	補助金	60	家庭で不要になった子ども服等を融通しあうことでリユースを推進する。	衣服に名前を書いているような衣料品は店舗での引き取りをしてもらえず捨ててしまわなければならないので、融通しあう家庭で不要になった子供服をリユースする。 例年呉服小学校の体操服リユースも行っているが、新型コロナウイルスの影響で今年度は回収のみを行った。	コロナ禍のため、実施出来なかった。		どうしても衣類が余ってしまうので余った分を施設等へ寄付したい。	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	環境政策課 自治振興費	
呉服小学校花いっぱい運動支援事業	120	補助金	120	地域と学校が一緒に実施する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を行う。	地域と学校が一緒になって花を育てる活動を支援する。 満寿美町内にあるプランターの手入れ	「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動を支援する。 満寿美町内に緑が増えた	呉服小学校と地域が一緒になって花を育てるプロジェクトに参加し、子ども達が花を育てる喜びを感じ、感性豊かな心を育む事ができた。 地元の方々に好評を得た	感性豊かな子ども達を育てていく事業にも、今後とも積極的に対応していきたい。	子供たちに花を育てる喜びを与える場として、地域と学校が更に連携を図ることに期待したい	公園みどり課 自治振興費	
地域内学校園設備支援事業	510	補助金	510	地域内の学校園において開催される各種地域イベントにて必要となる備品の整備を行う。	地域内の学校園においてイベントや行事などで必要な備品が不足していた。	必要な備品の整備を行う。	学校関係者だけでなく地域の人にとって利便性が増した。	安心して教育が受けられる環境を整えていきたい。	各種行事に必要な備品を整備することにより、学校関係者だけでなく地域の人にとっての利便性が増した。	総務・学務課 自治振興費	
キッズランド支援事業	60	補助金	60	呉服小学校で行われている「キッズランド」で使用する用品を購入し、子育て支援を推進する。	地域内の呉服小学校のキッズクラブに遊具備品を整備し、子育て支援を推進する。 要望が市民からあった。	地域内の呉服小学校のキッズクラブに遊具備品を整備することにより、子供たちの環境が改善した。	子育て世代の市民は日々負担増であるが、少しでも安心安全の助けになっているので大いに歓迎されている。	今後も支援していく。	遊具・備品等の購入・整備ができ、子育て支援推進の一助となった。	教育センター 自治振興費	
グラウンドゴルフ実施事業	90	補助金	90	高齢者と若者が一緒にグラウンドゴルフを行い、スポーツを通じて地域コミュニケーションを図る。	グラウンドゴルフの普及とスポーツを通じての地域のコミュニケーションを図る。	コロナ禍のため、実施出来なかった。		若者の参加が得られなかったことなど、今後の広報活動や運営の方向性に検討の余地あり。	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	生涯学習推進課 自治振興費	
計	11,831			事業提案限度額	17,421千円	次年度繰越金額	5,590千円				

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

石橋地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)	
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課 自治振興費	
防犯カメラ新規設置事業	243	電気使用料 9 機器借上料 234	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	一部死角になり不安、及び、犯罪者の逃走経路となるのではとの指摘及び、要望有り。	犯罪者の逃走経路の減少及び、設置してると言うだけで、犯罪件数の減少、並びに犯罪者の早期逮捕につながる情報が集まりやすくなった。	設置箇所が増えたことによる犯罪抑止効果ありと判断します。	現状を継続しつつ、人任せの安全対策ではなく、自らの防犯意識向上を促し、各家庭への防犯装置の充実（支援/援助）を図り、防犯設備の設置率、見守り役の増強の見直し検討が必要であると考え、又、これからは、防犯設置機材として、防犯カメラ/車載カメラ/ドローン、緊急連絡手段として、放送設備（ドローン含め）等の在り方を重点的に検討及び対応を考えたいと思います。	各部会でまとめられたものを、役員会で決定する。	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、多くの事業を工夫いたした上で、市域の治安維持に貢献したことを評価	必要箇所に適切に設置していることで、地域の治安維持に貢献したことを評価	危機管理課 自治振興費	
防犯カメラ維持管理事業	537	電気使用料 78 設備保守点検委託料 348 機器借上料 111	安全で安心な暮らしの実現に向け設置した防犯カメラの維持管理を行う。	一部死角になり不安、及び、犯罪者の逃走経路となるのではとの指摘及び、要望有り。	設置箇所も増え、安全で安心な暮らしが出来る。又、第三の目（者）による長期休暇（夏休み/大型連休）期間中の見守りが可能となる為、継続とする。	設置箇所が増えたことによる抑止効果ありと判断します。	リースのような、安価な設投で、管理費の低減を図る。又、家庭用防犯装置費用支援/補助費を提案し、各家庭への防犯装置設置希望者を募り、自らの防犯意識向上を促進させ、地域一丸となった防犯対策を実施する。又、ドローン等を活用した地区放送も検討し維持管理（資格免許含め）、教育が必要。		継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む	危機管理課 自治振興費		
地域内会館備品整備事業(井口堂北会館)	37	消耗品費 37	地域内会館(井口堂北会館)の備品整備を行い、利便性を向上させる。	地域内会館で利用者が多い井口堂北会館のスリッパが古く、汚れが目立ち、色合いも暗く利用者から苦情が多く寄せられていた。	軽く、清潔感が感じられて利用者からも好評である。	買換えにより、下駄箱清掃を地域の福祉団体等が実施される上履き、下履きの置き場所を利用者が意識してスムーズに出来ている。	会館利用申込みリーダー、特に子供たちグループに下駄箱の取扱い注意を図って行きたい。		会館の利便性が向上したもので、積極的にご利用いただきたい。	コミュニティ推進課 地域集施設管理費		
地域掲示板設置事業	743	修繕料 743	老朽化した既存の掲示板の補修を行い、地域団体と共に使用出来るようにする。	石橋地域コミュニティ内の掲示板は、長年の劣化で雨水が染み込む、板部分が腐ってボロボロ、貼りにくく困り、ビニールが割れる、等の不具合や不評が目立っていました。	掲示板的材質をマグネット対応に変更し、防水対策、等の補修を行いました。	掲示板的にビン留めの必要がなくなり、容易に多くの掲示物を掲示できるようになりました。また天候に左右されず、石橋コミュニティ推進協議会の活動、地域のお知らせ、等広く周知することが出来ました。	掲示板のマグネットの管理、掲示物の入替え丸と公益性の維持、管理の徹底、長く大事に使用すること。		地域内の掲示板が一斉にマグネット化することで利便性が向上したもので、一層の活用を期待すること。	コミュニティ推進課 自治振興費		
地域行事等活動促進事業	400	行事報償金 400	納涼大会等を実施する地域団体に電気設備設置及び活動運営を支援して、コミュニティ活動の充実を図る。								新型コロナウイルス感染症対策のため事業実施により未評価	空持 観光課 自治振興費
道路安全対策事業	1,800	修繕料 1,800	通学路での自動車、自転車運転者の無灯火、スマホのながら運転、スピードの出しすぎ等、危険な運転が見受けられるため、交通安全対策を行う。	通学路での自転車、自転車の無灯火スマホの長良運転スピードの出しすぎ等、危険な運転が見受けられるため、交通安全対策を行う(道路白線舗装等)	旭丘敬老会館前から石橋公園前(白線舗装)万寿荘前から石橋公園前(立体的舗装スリッド)	この箇所は急勾配曲がり坂道危険箇所スピードを落とすことで通過する車が多くなって来ました。	まだまだ白線舗装必要な道路沢山あります。通学路のグリーンベルトと併用などお願いします。行政機関(道路課等)へ相談にお伺いたします。		横断歩道の舗装等池田警察署へ相談していきます。	土木管理課 道路維持費		
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の向上とコミュニティ活動の充実を図る。								新型コロナウイルス感染症対策のため事業実施により未評価	生涯学習推進課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	410	補助金 410	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	コミュニティ各部会が行う事業や関心の高い活動内容をPRすることでコミュニティの存在と役割を知ってもらえる。	年間2回のコミュニティ紙の発行事業で、旭丘、井口堂及び石橋における活動内容と地域性を広く伝達できた。	コロナ禍に関係したこと、地域に必要なニュース、学校と地域のつながり、石橋コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く周知することが出来た。	コロナ禍の及び影響と対応、自然災害時の対応、敬老の里プロジェクト、地域分権の見直し、等の記事を扱いたい。		地域情報だけでなくコロナ禍の状況や地域分権制度についてなどの情報が、バランスよくまとめられていてわかりやすい。	広報シティプロモーション課 自治振興費		
避難行動要支援者対策事業	252	補助金 252	石橋小学校区の要支援者のうち、要支援に同意された家庭に対し、定期的に安全確認を行い、非常時には避難誘導に努める。	訪問しながら コミュニケーションもとれるようになっていた。	顔を見ずの電話での調査ということで、要支援者の方の懸念も心配もされたが何とかスムーズに聞き取り調査できた。	コロナ禍で孤独になりがちな要支援者の方に 電話ではあったが少しでも不安な気持ちを軽減できたのではないかと。	コロナ感染症への不安もあり、訪問ができていない、電話しても詐欺等の対策から、応答されない方もいて 委員が何度も電話した案件もあり、今後のコロナ終息が少しでも早く望まれる。		本市の施策にご理解いただき協議会を立ち上げ実施していただいている功績を非常に大きく評価するとともに、コロナ禍で今まで以上にいろいろな面もあるとは思いますが、引き続き継続的な事業の実施に期待	危機管理課 自治振興費		
地域防災体制強化等事業	996	補助金 996	自主防災組織の体制強化を図るため、防災倉庫に防災備品を整備する。また、防災訓練を関係各所の協力のもと実施する。	緊急時に誰が何をどうするべきなのか知識及び経験が不足しているため、緊急時の対応が取れない、又、新型コロナウイルスが発生した場合の避難についての新しい知識習得も必要不可欠となります。	組織網の整備及び、緊急時の対応(訓練ではあるが)体験及び各種(新)知識の向上が図れた。又、状況に応じた、訓練方法の変更(2部体制)も滞りなく遂行できた。	地域住民、学校、施設他及び行政の協力の基、連携を取りながら訓練が出来た。今回は特に2部体制としたことによる学校の教職員様のご理解及びご協力に感謝いたします。参加者各自の経験となり記憶の片隅にでも残れば、いざという時の助けになると期待します。	各種の災害時(発生時間)に即対応出来るか、訓練内容(夜間含め)を要しつつ継続実施する。学校の設備に頼らず、公園等に何も無い場所でも一から炊き出し等が可能かやってみる価値あり。又、備品の手当て、身近にある品物を応用し、簡単な出来る方法等も織り込んでの実施としたい。又、今回のようなウイルス等による緊急事態宣言発令時に対応できる体制(装備含め)を検討する必要性を痛感する。		災害時における地域の防災力向上に期待することも、地域住民の巻き込んだ活動は、共助の推進に大きく貢献していることを評価	危機管理課 自治振興費		

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

子ども見守りパトロール強化事業	524	補助金	524	子ども見守りパトロールを実施し、地区内の安全・安心の向上を図る。	パトロール隊員のユニホームが作成後、年数が経ち劣化と在庫量が少なく、交換・新規高着集も躊躇する状況である。誘導旗がビニール製で冬場は丸まって使いづらい	改良した新しいユニホームと大きな誘導旗で自動車、自転車通行、歩行人に交通整理を知らせられる。ユニホーム、誘導旗の新調が知れて、早々に参加者があった。	赤色のユニホーム、大きな文字の誘導旗で遠くから見渡せ、子ども、隊員が共に安全、安心に誘導出来る。	子ども見守り隊も地域内に活動が浸透しているがさらに幅広く参加を呼びかけたい。	危機管理課 自治振興費	
地域内会館備品運営事業	400	補助金	400	井口堂北会館に整備した備品の運用を行う。	コピー印刷機設置以前は各団体が各自でコピーなどでコピーをとっていたのでかなりの費用と時間を取っていた	コピー印刷機設置後は各団体が会館において、チラシ、レジメ等、印刷出来る様になった。	費用、時間ともに短縮経減出来各団体が使用する事により、しては地域住民全体が広がり、利益をもたらしている事と思う	今、現在はコピー印刷機を2階、おどり場にて共有しているが、いずれは、部屋の中に設置したい	コミュニティ推進課 自治振興費	
地域住民御意見箱設置事業	10	補助金	10	地域住民の声を集約し、活動に反映するため設置したポストの補修を行う。	地域住民からの要望/意見を収集する意見箱の鍵が腐食及び一部開錠用のキー（板キー）紛失により、意見箱が開けられなくなり、意見収集が困難となった。	意見箱の鍵全てを交換するとともに、鍵を統一したため、キーを紛失しても対応可能となり、定期的な意見収集が可能となった。	定期的な意見収集が可能となったことと、収集時、錆防止及び作動がスムーズになるよう点検も同時に実施するようになった。	定期的な収集及び点検も実施するが、錆びにくくする工夫（雨よけ等の設置）を検討する。	コミュニティ推進課 自治振興費	
地域イベント備品整備事業	134	補助金	134	地域で開催されるイベント等に使用する備品を整備し、地域の活性化を図る。	小さい鉄板が2枚のみだったので料理を提供するのに時間がかかりすぎた	大人数の料理が短時間に提供出来る様になった	新入生歓迎会、防災訓練、ナイトフェスタ、夏まつり等各団体が様々な事業に使用出来る様になった	保管場所が現在、石橋小学校に保管をお願いしているがいずれ他の場所に移動する事を望む	空港・観光課 自治振興費	
リサイクル活動事業	30	補助金	30	ペットボトルキャップの回収リサイクルを行う。資源の有効利用を図ると同時に住民の意識を高める。	回収容器設置場所の増加と回収量の増量	コロナ禍の元、活動は少なかった。施設の閉鎖、出入り禁止（高齢者施設）となり回収量が減った。	コロナ禍であったが、各担当者は三密を守り活動してもらったこの事業の継続につながった。（一年通じて動いていた）回収量は大きい。	小、中学校へのPR活動を増やすと併に、地域住民への呼びかけを再度計っていく。	環境政策課 自治振興費	
交通安全モラル啓発事業	100	補助金	100	車・人・自転車の事故減少及びマナー向上のため、交通安全モラル教室を開催する。また、交通安全対策として、標識看板の設置を行う。	自転車も軽車両であるという認識（知識含む）及び罰則にも乏しく、標識の見方及び自転車の正しい操作方法等の知識不足且つ、賠償保険の重要性に乏しく、年々賠償保険金額の上昇等、無知では済まされない状況である。	本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止等により、行政指導に基づき、安全運転教室は中止となりましたが、今後の状況も踏まえ、一向に揃っての講習会等が出来ない場合を考慮し、いつでも、どこでも好きな時間に、リモート等でも勉強会が可能になるよう、教育ビデオ（DVD）を製作し、地区の学校への配布及び、各家庭への貸し出しが可能となるよう、製作数を増やし、準備する。又罰則含む安全運転法規啓蒙チラシ掲示は継続実施する。	新型コロナウイルス感染拡大防止の行政指導により、安全運転教室等を中止した場合でも、各学級並びに各個人毎に、リモートを含め、密に関係なく勉強会の実施が可能となり、知識の向上及びモラル向上が図れ、安全に結びつく。	子供達を中心に継続実施はするが、指導者であるご両親・おばあちゃん及びおじいちゃんへの指導（認知向上）及び注意が急務と思われる。他、後援への加入促進、並びに自転車の点検等地域の自転車店様との協力の基、展開が必要である。今回のような異常事態が今後もあろうことも想定しながら、臨機応変に対応が可能となる仕組み及び、運営方法の検討も考えつつ、日々の地道な地域住民の協力の基、自転車だけでなく、交通安全全般に全員で取り組む必要性あり。	交通安全啓発に努め、車・人、自転車の事故減少及びマナー向上につながった。	交通安全課 自治振興費
地域美化整備事業①	30	補助金	30	花や緑にあふれた「美しいまちづくり」を目指し、宅地周辺の雑草除去を行う。	例年に引き続き 環境美化のチラシを作成し、各戸へ配布	本年も配布した	この事業も継続してきたため、かなり雑草除去等、身の回りの美化への住民の意識が高まった。	継続してきた事業ではあるが、各戸に配布するのも今年度で終わりにすることにしたい。今後は委員のご近所への呼びかけや自主的に美化に努めていきたい。	地域住民の間に、美化意識の向上が見られた	公園みどり課 自治振興費
地域美化整備事業②	97	補助金	97	花や緑にあふれた「美しいまちづくり」を目指し、花を育てて、保育所、学校、各施設にプランターの花を贈呈する。	例年に引き続き プランターの花を届けたい	引き続き、プランターの花を各施設、保育所、学校へ贈呈した	地域のあちこちに、きれいに植わったプランターの花が見られ見た目にも、美しく住民の安らぎになった	プランターを届けた後の、水やりや枯れた場合のフォローができず見た目に悪い場所もあり、贈呈した各所へ、その世話をお願いすることがいいのかどうか、検討しなければならぬ。	綺麗に花が植えられたプランターで、地域住民の方々に心の潤いを与えられた	公園みどり課 自治振興費
公園美化整備事業	44	補助金	44	花や緑にあふれた「美しいまちづくり」を目指し、花を育てていく。	花や緑にあふれた「美しいまちづくり」を目指し、花を育てた	引き続き、この事業で花を育てた	公園の花壇に花があふれ、プランターにも花を植え、見た目も華やかで、美しい公園になった。	夏場の公園は日陰もなく、朝夕の水やりには大変な努力が必要になっていく。散水を簡単に楽にできるように、散水栓を増やす等検討したい	公園に綺麗な花が溢れることで、誰もが訪れやすい美しい公園になった	公園みどり課 自治振興費
公園整備等事業	45	補助金	45	公園が憩いの場、遊びの場、集合の場として地域住民に積極的に活用されるよう、機能の維持・充実を図る。					新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	公園みどり課 自治振興費
石橋公園整備事業	14	補助金	14	子どもたちが安全に遊べるよう、石橋公園内の凹凸の平準化のため、土入れを行う。	石橋公園のグラウンドが、雨などで溝ができていた	毎年行っている事業ではあるが、今年度も土ならしをし整備した	子供たちが安全に利用できるようになった	公園は利用者も多く、大規模な土入れや、整備が必要なることもあり今後も検討したい	整備を行うことにより、地域の子どもたちが安心して遊べる公園になった	公園みどり課 自治振興費
キッズランド支援事業	585	補助金	585	石橋小学校で行われている「キッズランド」で使用する管理員用の備品を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。	キッズランド管理員のユニホーム、Tシャツが作成後、年数が経ち劣化と在庫量が少なくなっている。交換、新規管理員用も不足する状況である。	管理員の期間が長く、現在着用のTシャツ、ユニホームを新調した物を再配布して新たな気持ちで活動に励む事に導きたい。令和2年度は、活動の機会が無く、残念であった。	令和2年度は、新型コロナウイルスの流行で活動が出来ず新規調製の効果が無かったが次年度以降に委ねたい。	P.T.A. 子ども会と校区住民の管理員には高齢者が多い。校区内に活動が浸透しており幅広く参加を呼びかけたい。	教育センター 自治振興費	
三世代交流事業	250	補助金	250	異学年交流により上級生は下級生をいたわり、下級生は上級生を慕い敬う人間関係を幼少期から育成する。					新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	教育センター 自治振興費
計	7,981			事業提案限度額 12,786千円 次年度繰越金額 4,805千円						

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

五月丘地域コミュニティ推進協議会			概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課 自治振興費
防犯カメラ新規設置事業	81	電気使用料 3 機器借上料 78	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	校区内に20ヶ所の防犯カメラが設置されていた。	新たに1ヶ所の防犯カメラを設置し、全21ヶ所となった。	防犯カメラは犯罪被害の未然防止や犯罪の予防の有用性が認められている。地域の安全で安心な暮らしの実現を目指すために有効と考える。	21ヶ所ですと十分とは言えず、設置を増やしてほしいとの地域ニーズがある。しかし増やせば増やすだけ毎年の維持管理費用が増えることが課題である。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめられたものを総会で決定する。	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響がある中でも、感染対策に工夫を凝らしていただきながら積極的に活動いただいたものと認識。イベント等の実施と中止の判断は非常に難しく、協議会内でのコンセンサスの取り方は注意が必要と考えるところ。	地域の防犯のため積極的に防犯カメラを設置いただいている点を評価するとともに、費用対効果を勘案した管理運用を望む。	危機管理課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	1,447	電気使用料 96 設備保守点検委託料 174 機器借上料 1,177	防犯カメラの維持管理を行う。	20台の防犯カメラを管理している。	新たに1台増えて、全21台となった。	—	防犯カメラに係る毎年の維持管理費用が本協議会予算の24%を占めていることが課題である。	—	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む。	危機管理課 自治振興費	
緊急通報装置管理事業	1	電気使用料 1	緊急通報装置の電気代を賅う。	継続して緊急通報装置を管理している。	—	—	小学校や中学校への主要な通学路にあり、安心感があるとともに犯罪の抑止効果が期待できる。	特になし。	緊急通報装置の運用が、今後、犯罪抑止に繋がることを期待	危機管理課 自治振興費	
地域防災体制強化等事業	568	器具費 509 補助金 59	万が一の事態に備え、防災備品を備蓄する。	2018年の大阪府北部地震で、五月丘3丁目と4丁目一部の地域で停電が続いた。緊急時の停電への備えが必要である。	災害時用簡易トイレ2台と災害時運搬用リヤカー1台を購入した。	地震発生時や台風の襲来時など、災害時の備えを整えつつある。	防災備品の点検、使用期限の確認、補充等の維持管理が重要である。	—	過去の災害の教訓を生かした事業内容を評価	危機管理課 災害対策費/自治振興費	
				五月丘1丁目自治会自主防災・防犯隊の「防犯パトロールベスト」が老朽化していた。	五月丘1丁目自治会自主防災・防犯隊の「防犯パトロールベスト」を購入し、地域の自主防災組織を支援した。	自主防災組織を支援し、校区の防災力を高める。	特になし。	—	—	—	—
地域コミュニティ推進協議会拠点管理運営事業	1,114	機器借上料 185 インターネット使用料165 補助金 764	地域コミュニティ推進協議会の事務所と、会員・地域住民が気軽に集える拠点の運営を行う。	複合機、パソコンを使用して事務作業が行えるようになった。また電話、FAXの回線が通じ、外部から連絡を受けることが可能になった。	同上。	事務所としての機能を発揮している。	新型コロナウイルス感染対策としてWEB会議ができる環境整備が必要である。	—	コロナ禍の難しい状況の中にもいろいろ工夫しながらコミュニティのつながり強化に取り組んでいたというものと評価。	コミュニティ推進課 自治振興費	
				2019年8月に本協議会事務所を開設した。有償ボランティアを募り、2020年2月からは事務所に詰めて、来訪や電話対応をしていた。また、地域に関するご意見や相談事などを直接伝えることのできる相談所としての機能を有する。	2020年9月、本協議会事務所を「五月丘まちづくりプラザ」（略称：まちプラ）として開設した。「まちプラ」は、地域住民が自由に立ち寄れるサロンとして、地域情報を掲示するまちの情報センターとして、また地域に関するご意見や相談事などを直接伝えることのできる相談所としての機能を有する。	開設以来、住民の貴重な声を直接聞くことができおり、地域課題に取り組んでいるところである。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、共同利用施設五月丘会館が閉まると入館できず、本事務所として使用できなくなり、大変不便である。	—	—	—	
AED管理事業	85	消耗品費 85	地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	校区内に3箇所AEDを管理している。	五月丘会館とセブンイレブンに設置のAEDのバッテリーとパッドを交換した。	人が集まる場所に設置しており、安心感がある。	機器と部品の更新時期に留意する。	—	健康増進課 保健衛生総務費		
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。地域コミュニティ意識の高揚に努める。	校区スポーツ振興会主催の大会を支援している。	未実施。 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	—	—	—	—	生涯学習推進課 社会振興費	
地域コミュニティ紙等発行事業	240	補助金 240	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	本協議会の活動内容を地域住民に周知するとともに、地域住民に必要な情報を発信するために、年に2回、まちづくり通信（広報誌）を発行し、全戸配布をしている。	本協議会の広報誌（五月丘まちづくり通信）を年2回発行し、五月丘地域に全戸配布を実施した。	今年度は、新型コロナウイルス感染予防対策のために活動が制限される中、他団体の活動や学校の様子なども紹介した。外で交流することのできない地域住民に地域の情報を伝えることができた。	今後本協議会が他団体と調整して情報共有し、地域住民に発信していきたい。	—	広報シティプロモーション課 自治振興費		
地域防災訓練強化事業	100	補助金 100	防災意識向上のため、ポスターの製作と自主防災組織また属さない人も一緒に、防災訓練や勉強会を実施する。	毎年開催の五月丘1丁目・アルビス五月ヶ丘・五月丘5丁目の自主防災組織主催の合同防災訓練を支援し、本協議会も自主防災組織のない地域住民の受け皿となり参加している。	未実施。 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	—	—	—	危機管理課 自治振興費		
コミュニティサロン設置事業	305	補助金 305	地域の人々に情報交換や交流の活動場所としてコミュニティサロンを月2回設置する。	毎月2回、コミュニティカフェ五月丘（C.C.S.）を開催している。	今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために「カフェ」ではなく、コミュニティサロンとして場所を地域に提供した。中でも電子ピアノを置いて、サロンピアノとしての利用は好評を得た。	本事業を初めて8年が経過した。地域住民の憩いや交流の場として定着している。	新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとり、工夫しながら実施する必要がある。	—	コミュニティ推進課 自治振興費		

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

盆踊り大会支援事業	250	補助金	250	地域団体が実施する、盆踊り大会の運営を支援する。	校区スポーツ振興会主催の大会を支援している。	盆踊り大会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。机が不足していたため、机を購入した。	机の多くは老朽化していた。これらの更新を図ることができ、盆踊り大会だけでなく、市民レクリエーション大会にも五月丘フェスタにも使用できる。	特になし。	盆踊りは中止となったが、老朽化により、机を新調したとのことなどで、適切な管理のもと長期的な使用を期待	空港・観光課 自治振興費
五月丘フェスタ開催事業	350	補助金	350	盆踊り、市民レクリエーションに次ぐ地域住民の交流・ふれあいの場としてフェスタを開催し、恒例行事として定着させる。	毎年、五月丘小学校で実施。内容は模擬店、ステージ、フリーマーケット、スポーツゲーム等。	未実施。 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	—	—	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 自治振興費
高齢者等の居場所づくり事業	382	補助金	382	独居老人の安否確認、認知症等の予防、高齢者が生きがいを持って生活できるよう支援する場を提供する。	毎月第3日曜日に、「おしゃべり広場」を開催。参加者は地域のお年寄りが多く、麻雀・トランプ・塗り絵、囲碁など思い思いの事をされている。	未実施。 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	—	—	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	高齢・福祉総務課 自治振興費
花プロジェクト事業	150	補助金	150	小・中学校関係者とともに協働で地域の人々が花を育て、花を通じて人々の心を豊かにする。	五月丘小学校の授業の一環として、また渋谷中学校のクラブ活動の一環として、年2回実施。	大阪府池田土木事務所、小・中学校教職員、PTA、地域住民の有志が協力して、子ども達と一緒に苗の植え込みを実施(小学校1000株、中学生800株)。 学校で育て、開花させた後は、校区内の自治会やしおたに学園、池田五月山教会幼稚園、五月丘こども園、くすのき学園、郵便局に花を配り、地域に花を増やしていく活動を実施した。 尚、春開催は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	花を育てることを通じて子ども達の健全育成と、地域住民の心が豊かになることを期待する。	地域に配る花の数を増やしたい、校区が緑豊かなまちとなるように目指したい。	大阪府と地域住民、学校等が協力し多くの花が咲く街づくり、子供たちの健全育成の役に立っており、継続が望ましい	公園みどり課 自治振興費
キッズランド支援事業	30	補助金	30	五月丘小学校で行われている「キッズランド」で使用する備品を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。	。	キッズランドで使用する「竹馬」を購入。	キッズランドの活動を支援し、五月丘小学校の児童が使用する遊具を増やしている。	特になし。	児童が安全に使える遊具が増えた。	教育センター 自治振興費
イベント運営事業	180	補助金	180	地域交流や地域活性化などに重点を置き、地域住民参加のイベントを行う。	グランドゴルフ(年2回)、里山教室(年2回)、五月山ハイキング、卓球教室を開催。	本協議会主催のイベントとしては11月に里山教室を開催、10月にグランドゴルフ大会を開催。五月山ハイキングは校区スポーツ振興会主催のイベントでこれを支援した。卓球教室は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	イベントは地域交流・親睦が目的で、対象に合わせた行事(グランドゴルフはお年寄り向け、里山教室は子ども向け)を行うことで、幅広い年齢層に参加いただいている。特に今年度は中止となるイベントが多い中、実施できたイベントには多くの応募が集まった。	今後も新型コロナウイルス感染症予防対策をしながら地域交流イベントの企画を検討していく。	地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。	生涯学習推進課 自治振興費
計	5,583			事業提案限度額 14,982千円	次年度繰越金額 9,399千円					

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

石橋南地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の助成、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	718	電気使用料 36 機器借上料 682	校区に設置した防犯カメラの維持管理を行う。引き続き地域内の犯罪の抑止と住民の安全・安心な生活環境を確保する。	当地区では既設3台・リース6台	カメラ設置に係る維持・管理の為、定期点検等を実施し、正確な情報提供に努めた。	池田警察署等からの要請を受け、カメラ開示を行なった。	継続	各別部（ブロック別）でまとめられたものを協議会で決定する。	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、市実施の提案事業や備品整備事業が多く、他地域と比べ多くの事業が実施され地域に還元されたもの。	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む	危機管理課 自治振興費 コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費
地域防災体制強化等事業	1,104	消耗品費 171 修繕料 600 器具費 333	自主防災組織への資機材配備を充実させ、地域の防災体制の強化・推進を図る。	住吉2丁目公園内に防災機材収納の倉庫を設置	公園内の倉庫に工具セット・リヤカー・消火器 発電機等を配備し体制を整備した。	万一に備えた安心・安全に寄与している。	維持・管理に努める		災害時に備えた取組を評価し、有効性を期待	危機管理課 災害対策費	
地域内会館設備改修事業①	494	修繕料 494	空港会館敷地内の舗装を行い、転倒事故の防止を図り利便性を向上させる。	空港会館前道路の舗装の実施	道路を舗装改修する事により来館者の歩行の安心・安全に寄与した。	来館者の安全に効果あり。	定期的に見守り、安全を確認する		会館の利便性が向上したものの、利用者増につながるよう期待。	コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費	
地域内会館設備改修事業②	583	修繕料 583	石橋会館敷地内の駐輪場に屋根を設置することで、会館利用者の利便性を向上させる。	来館者の自転車置場に屋根の設置	これ迄屋根が無かった為雨天等の場合「雨ざらし」となっていたが屋根設置により解消する事が出来た。	会館利用者より感謝の声あり	継続		会館の利便性が向上したものの、適切な管理運営をお願いするところ。	コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費	
地域内会館備品整備事業①	646	庁用器具費 646	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	空港会館内の音響設備の設置	音響設備を一新する事により会議の効率・進行等に大いに効果があった。	大いに効果があった	維持管理に万全を期す。		緊急時の備えが強化されたもの。管理人不在時の対応等、適切な管理・運用の効率化等の整備が必要。	コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費	
地域内会館備品整備事業②	366	消耗品費 124 庁用器具費 242	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	石橋会館内に緊急避難用備品を設置した。	ハローゲン投光器、カセットガス発電機(2台) 救急箱等を配備、緊急時に備える。	緊急時の安全・安心に備える事が出来る	維持・管理に努める		会館の適切な維持管理に寄与。指定管理者として、日々の清掃等をお願いするところ。	コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費	
地域内会館清掃事業	132	清掃委託料 132	住み込みの管理人のいない地域内会館の清掃を行うことで、会館を清潔に保つ。	住み込み管理人がいない為、会館を定期掃除を行う事により会館の清潔を保つ。	年間3回実施し会館の清潔を維持する。	会館利用者（わたぼうし）は小児がよく利用する為自主的にトイレの清掃の協力あり	維持		共同利用施設にAEDを配置することで、多くの住民の安心感を待つことが出来るようになる。今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていきたい。	健康増進課 保健衛生総務費	
AED管理事業	85	消耗品費 85	地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるように維持管理を行う。	付属パッドの使用期限切れ分を交換する。	石橋駅前会館・空港会館2ヶ所分を交換した。	緊急時の対応が可能	継続		ゴミ受け設置により、ゴミの散乱が無くなったことに加え、協議会による清掃を継続的に実施されており、環境改善に大きく貢献している。	土木管理課 用排水対策費	
今井水路改修事業	363	修繕料 363	今井水路がカーブしている場所でゴミが溜まっており、水が止まるとヘドロが乾燥し臭気するため、ゴミ受けフェンスを設置し、清掃しやすい環境をつくる。	生活雑廃ゴミがたまり環境・衛生面が悪い。	ゴミ受けフェンスの設置により回収が容易に可能となった。	回収がしやすくなった為、環境改善にもつながった。	適切な維持管理		新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	生涯学習推進課 社会体育振興費	
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の向上に努める。						コロナ禍で事業が制限される中、予定通り3回発行したことが評価できる。今後もコロナ禍がしばらく続くが、引き続き地域住民のためのわかりやすい地域情報誌の作成に努めてほしい。	広報シティプロモーション課 自治振興費	
地域コミュニティ紙等発行事業	278	補助金 278	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地区内の活動状況・事業実施状況を地域住民にPRする	年間3回発行し地区内全世帯に配布した。	当会の活動状況を理解いただく一助となった。	これからも年間3回発行に努める		会館の利便性が向上したものの、適切な管理をお願いするところ。	コミュニティ推進課 自治振興費	
地域内会館管理運営事業	423	補助金 423	地域内会館の管理運営を行い、会館利用者の利便性の向上を図る。	石橋会館内にフリーWiFi設備の設置とコピー機の継続設置。	会館利用者の利便性の向上に寄与した。	会館利用者より喜びの声多数あり。	継続		新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 自治振興費	
地域行事等活動推進事業	165	補助金 165	地域で開催される行事等を主催する団体に対し、活動に係る支援を行う。								

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

石橋太鼓支援事業	583	補助金	583	石橋まつり等で使用する太鼓の皮の張替えをし、子供太鼓活動を支援する。	太鼓の皮の張り替えの実施により、石橋まつり、子供達の練習に役立つ。	宮太鼓2尺の両面張替え等を行う事により演奏の効果の向上につなげた。	演奏効果の向上は、参加者の意欲の向上にも効果があった。	適切な管理に努める		適切な管理のもと、長期的に利用できるよう期待	空港・観光課 自治振興費
地域イベント備品整備事業	746	補助金	746	地域で開催されるイベント等に使用する備品を整備し、地域の活性化を図る。	イベントに使用する備品を整備する	「ワンタッチテント」（6台）を配備する事によりイベント実施に効果があった。	イベント実施に効果あり。	適切な維持・管理に努める		適切な管理のもと、長期的に利用できるよう期待	空港・観光課 自治振興費
石橋南地域花いっぱい運動支援事業	60	補助金	60	石橋南小学校で花苗を育て、校庭や地域の公園に植え替えることで、まちの緑化を志すボランティアの育成や児童に命の大切さを伝える。	石橋南小学校児童により花苗を育て、校庭や地球公園等に植付ける。	地域の緑化（花いっぱい）を志す、ボランティア精神の育成と児童に命（花）の大切さを体感させる事に役立った。	地域の緑化（花いっぱい）を志す、ボランティア精神の育成と児童に命（花）の大切さを体感させる事に役立った。	継続支援		児童が自ら育てた花を地域に植えることで、それを通じた命の大切さを感じてもらえた	公園みどり課 自治振興費
計	7,046			事業提案限度額	15,337千円	次年度繰越金額	8,291千円				

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

神田地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100		協議会の運営に必要な庶務的経費の概、地域住民への普及及び周知に係る事務費。							コミュニティ推進課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	112	電気使用料 9 修繕料 74 設備保守点検委託料 29	事故や犯罪を未然に防ぐ為の防犯カメラが正しく機能するよう、保守点検等の維持管理を行う。	29年度に神田消防分団近辺・臨塚の中国道下の地下道に防犯カメラを2台設置合計3台の維持管理が必要。	3台のカメラについては、令和元年度も保守点検等の維持管理(電気料含む)費用が発生。 令和2年度は神田東公園設置分は撤去することになった。(道路公園との関連)	防犯カメラの映像がキチンとみれるようになった。 事故抑止効果が期待できる。	事故抑止効果をさらに高めるため、「防犯カメラ作動中」看板を大きくすることが必要。(ドライバーからもよく見えるように)	各部会からの報告を受け、役員会でまとめられたものを協議会で決定する。	令和2年度も転落防止柵やグリーンベルトの敷設で大規模な改修が行われたもの。 一方で、新型コロナウイルス感染症の影響もあり人員体制の弱体化が広報活動にも影響しており、協議会の参画者をいかに増やしていくかが重要な課題であると認識するところ。	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む	危機管理課 自治振興費
地域掲示板設置事業	1,043	修繕料 1,043	老朽化した地域の掲示板を取り替え、地域団体と共に使用出来るようにする。	過去に民間事業者が設置した掲示板を使用していたが、老朽化等もあり使いえない状態が続いていた。	ガラス扉付の掲示板を設置した。 29年度に4カ所追加設置した。 令和元年度には新規3台設置するとともに既存掲示板の改修(マグネット化)を実施。 令和2年度にも掲示板新設(マグネット化)実施。	雨水にも濡れなくなり、校区内各種団体にも活用されている。 掲示物の掲示・除去が簡単にできるようになった。	未設置箇所を調査し設置することが必要。			当初の予定より設置台数が1割減となったところ。地域内でしっかりと事前調整を図っていただきたい。	コミュニティ推進課 自治振興費
地域行事等活動促進事業	200	行事報償金 200	地域で開催される盆踊り等の行事を支援し、コミュニティ意識の高揚を図る。	神田小学校区盆踊り大会が、地域の寄付・市からの定額支援で実施されており、出店等の収益で予算不足をカバーしていた。	市からの定額支援より多くの金額の支援ができた。 令和2年度は残念ながら新型コロナウイルス関連で盆踊り大会は実施できなかった。	地域行事の活性化が図れた。 令和元年度は天候にも恵まれ2日とも実施できた。	令和元年度から行事報償金への変更した。 今後も継続して支援金額の検討が必要。			新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 自治振興費
街路灯強化事業	27	電気使用料 27	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、街路灯の設置及び維持管理を行う。	街路灯不足・照度不足が多く指摘されていた。(放火事件発生を受けた自主防災会・消防団による夜間パトロールで指摘)	20年度に町会・自治会から要望のあったものを中心に、街路灯新設・照度アップを実施。校区内の夜間が明るくなった。 維持費も発生。	校区内の夜間が明るくなったことにより、放火等への牽制効果が出ていると思われる。	町会・自治会組織の無い地域の街路灯強化が必要。 継続して街路灯設置要望を受け付けるようPRも必要。 農地隣接の場所等に設置する場合は、高さ・向き等の調整が必要。 私有地に設置の場合地主の承諾書が必要となったが、地主をどのように調査するか検討が必要。			街路灯の継続的な設置に伴い、夜間通行の安全性を維持することができている。	土木管理課 交通対策費
水路転落防止柵等設置事業	3,054	修繕料 3,054	農業用水路に転落防止柵、またひかりこども園通園路にガードレールを設置し安全対策を図る。	農業用水路に転落防止柵のない場所が残っている。	江原川右岸、その他危険水路に転落防止柵を設置。 令和2年度には住民から設置要望のあった個所の設置を実施した。 併せて、ひかりこども園通園路にガードレールを設置安全対策が出来た。	水路への転落の危険がなくなった。	他に危険場所がないか常に危険場所の調査が必要。			転落防止柵の設置に伴い、通行の安全性が向上した。	土木管理課 交通対策費
道路安全対策事業	4,467	修繕料 4,467	児童が登下校の際に利用する通学路にグリーンベルトを設置し、児童の安全を確保する。	グリーンベルトを設置していない通学路がほとんどである。 (2カ所のみ設置済で殆どどの通学路が未設置)	神田小学校児童の通学路にグリーンベルトが設置でき、児童の安全が図れた。	児童通学の安全が図れた。	他に設置が必要な場所がないか調査が必要。また、設置済のものでも塗装のはげがないか継続して見守ることが必要。			グリーンベルトの設置に伴い、歩行者等の通行に対する安全性が向上した。	土木管理課 道路維持費
神田小学校緑化事業	120	修繕料 120	地域交流の場として神田小学校正門周辺の緑化推進を図る。植栽の一部が枯れたため、新植を行う。	神田小学校正門前の植栽の一部が枯れている。	枯れた木の代わりに暑さに強い植木を新植した。	正門前植栽がきれいになった。	真夏には水かけ等留意する必要がある。			地域交流の場として、学校における緑化推進を実施することができた。	総務・学務課 学校管理費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の高揚に努める。	神田小学校区住民運動会が、地域の寄付・市からの定額支援で実施されており、予算不足を盆踊り収益等でカバーしていた。	市からの定額支援より多くの金額の支援ができた。 令和2年度は新型コロナウイルス関連で住民運動会は実施できなかった。	地域行事の活性化が図れた。	毎年、助成必要金額の検証が必要。			新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	生涯学習推進課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	564	補助金 564	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	事務費予算の範囲内で年1回発行。(白黒印刷)	令和元年度は年2回の発行となった。(担当者交代などの理由で) 令和2年度は担当者が見つからず、残念ながら発行できなかった。 令和3年度も事業申請できなかった。	各種地域内団体の活動紹介をとりあげることができ、回数もふえたので地域への活動内容のPRができた。	新規協議会メンバー・安全パトロールボランティアを継続して広報紙で募集することが必要。 ワンルームマンション増加への対応が必要。 世帯数増加への対応は常時検討必要。 広報誌への広告掲載も継続して募集することが必要。 担当者が見つからず、令和3年度事業申請できず、早急に探す必要あり。			新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	広報シニアプロジェクト課 自治振興費
安全パトロール実施事業	70	補助金 70	地域の安全・安心の向上のため、パトロール隊が電動自転車パトロールを行う。	P.T.Aによる登校時の見守り活動は通学路を中心に実施されていたが、下校時を含め校区全体の安全パトロール体制がなかった。 H20年度からパトロールを開始することになった。	電動自転車による安全パトロール体制ができ、ボランティアを中心に下校時の校区内安全パトロールが実施された。(平成21年1月以降) 平成30年度につき、継続実施できた。また、令和元年度に老朽化に伴いバッテリー交換不可のため新規に3台購入した。	安全パトロールによる直接の目につく効果はないが、地域住民に少しづつパトロール実施が認識されてきて、防犯意識の向上に役立っている。 また、PRのためパトロール中の肩掛け柵も効果をあげている。	ボランティア人員の確保・増員が必要。 電動用バッテリーの交換が無理とのことなので新規自転車を購入する必要あり。 (令和元年度に3台購入して効果を上げている。)			地域での一定の認知度の向上等は日頃からの地道な活動の積み重ねであるため新鋭するとともに、本事業がより一層の犯罪抑止に繋がることを期待	危機管理課 自治振興費
神田地域コミュニティ広報事業	852	補助金 852	神田地域コミュニティ推進協議会の活動内容や地域団体、神田の行事・歴史・文化をカレンダーにし、地域のコミュニティ意識の高揚を図る。	年3回の広報誌が唯一の広報手段であった。	神田地域コミュニティの活動内容や、神田の自然・行事・文化等の写真を使ったカレンダーを作成し、全戸配布した。 令和元年度も継続実施した。 広告掲載も4件となった。 令和2年度は交代の担当者見つからず、発行できなかった。	神田地域内の写真等を通じて、神田地域のコミュニティ意識の高揚がはかれた。	地域行事・自然等の写真を広く地域住民に公募し、コミュニティ意識の更なる高揚を図ることが必要。 住宅の増加を常にチェックし発行部数の検討が必要。 令和3年度も担当者見つからず事業申請できなかった。地域内住民からも継続要求があるので、後継者を早急に探す必要あり。			新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	コミュニティ推進課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

地域内会館備品整備事業	50	補助金	50	神田会館に子ども文庫を設置し、絵本を見るために子どもが集まりやすい環境をつくる。	神田会館には遊具以外に子どもが集まるような備品がなかった。	子ども文庫を設置し、絵本をみるために子どもが集まりやすい環境をつくる。	マット・絵本を購入し、いざ子ども文庫を開設しようとした矢先にコロナ関係で会館の利用ができなくなった。絵本追加購入実施した。	令和2年度に入り、コロナ騒動が収まってから子ども文庫を開設・PRに努める。また、新規絵本購入方法の検討も必要。令和2年度もコロナ関連で開設できなかった。	コロナ禍における運用についても、運営委員会を含めご検討いただくことを期待するところ。	コミュニティ推進課 自治振興費
地域内会館備品運営事業	344	補助金	344	神田会館に整備した備品の運用を行う。	パソコン・コピー機等が不備。（個人の機器の使用・コンビニでのコピー）	ノートパソコン・複写機をリース、書類・パソコン等の保管用の保管庫も購入。	個人の機器の使用もせず、協議会用書類も安くコピーできるようになった。	専用の事務室の設置、併せてファックス用の電話設置が必要。コピー機も他団体が利用できるように検討が必要。	運用基準を設けた上で、適切な管理をお願いするところ。	コミュニティ推進課 自治振興費
神田フェスタ開催事業	150	補助金	150	盆踊り、市民レクリエーションに次ぐ地域住民の交流・ふれあいの場として、フェスタを開催し、恒例行事として定着させる。	地域住民の交流・ふれあいの場としては、年1回の盆踊り・運動会のみであった。	令和元年度も年3回の神田フェスタを開催予定していたが、今年にはいつのコロナ感染の問題で3月予定のフェスタは中止となった。 令和2年度は新型コロナウイルス関連でフェスタは実施できなかった。	回を追うごとに参加者も多くなり、次回への期待の声が多くなってきた。	参加者の増加・高齢者が多いということで開催場所の設定がむづかしくなってきた。（神田地区中心部にある民間設備の利用も検討）	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 自治振興費
神田地域花いっぱい運動支援事業	134	補助金	134	地域内の公園に花壇を設置し、地域ボランティアにて維持管理を行いながら、緑化の推進を図る。また神田小3年生とPTA、地域が一緒になって花を育て、学校や街に植えつける。	地域内の公園には花が少なく、手入れも不十分であった。	公園3か所に花壇を設置、定期的に花の入れ替え・水やり等ができるようになった。（神田花の会メンバーが対応） また、令和元年度から神田小学校3年生とPTA、地域が一緒になって花を育て、学校に植えたり、地域の施設・団体に贈呈することも始めた。	常にきれいな花がみれるようになって利用者から好評を博している。	他の公園他花壇など必要な場所がないか検討が必要。	常時綺麗な花が見られる公園になって、地域から喜ばれている。	公園みどり課 自治振興費
キッズランド支援事業	150	補助金	150	子どもパソコン学習教室を小学校、キッズランドと連携して開設し、パソコン操作等の指導を行う。	キッズランドのパソコン教室用備品が不足し、十分な活動ができなかった。	パソコン教室として必要なトナー、用紙類を支援することにした。 令和2年度は新型コロナウイルス関連でキッズランドは実施できなかった。	パソコン教室事業の充実及び参加者の増加が図れた。	毎年、備品購入必要金額の検証が必要。	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	教育センター 自治振興費
学校体育館施設開放支援事業	132	補助金	132	学校体育施設開放事業に対して使用後の掃除に使う備品を支援し、活動の充実を図る。	掃除機が小型・老朽化で体育館使用後の清掃に支障がある。	令和2年度に大型の掃除機を導入。	体育館使用後の清掃がスムーズに出来る様になった。	体育館施設開放事業の他の用具の点検も必要。	利用者が気持ちよく利用できる環境整備につながった。	生涯学習推進課 自治振興費
計	11,769			事業提案限度額	11,769千円	次年度繰越金額	0千円			

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

ほろごう地域コミュニティ推進協議会（細河地区）

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)	
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課 自治振興費	
細河ホームページ管理事業	166	システム運用委託料 166	細河の魅力や細河地区の取り組み状況をHPを通じ発信、HPの更新を行う。	池田市内、近隣市、国内、国外では細河の知名度はほとんどなく知名度を上げる目的・手段としてHPを開設し公開した。	毎月2回(年間)広報部員にてHP更新作業を行い出来る限り、地域の新鮮な情報の発信を行っている。	内外から事業・行事などHPを見て細河を訪れる人が増えてきている。	よりタイムリーに情報の発信を行いたい。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、いくつかの更新できるような、努めてほしい。	引き続き、より見やすくなるよう、更新できるような、努めてほしい。	広報シティプロモーション課 文書広報費	
地域掲示板設置事業	257	修繕料 257	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板を設置する。	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に周知するための掲示板が必要であった。	協議会で作成したコミュニティ誌などを掲示し、協議会の活動内容を周知するとともに新型コロナウイルス集団発生防止ポスター掲示や道路の片側通行予告など住民に必要な事項を周知することができた。	協議会の活動内容の周知とコミュニティ意識の高揚。			地域情報の広報に寄与しているもので、適切な管理をお願いするところ。	コミュニティ推進課 自治振興費		
細河祭り運営事業	150	負担金 150	地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るため地域住民が細河祭り運営事業を総合的に行う。								新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 観光費
細河の自然を守る事業①	65	管理委託料 65	ビオトープでのホテルの育成事業を実施し、細河の環境資源を活用した地域の活性化を図る。	ビオトープの整備継続中である。	整備は継続中であるがメダカ等生息の観察ができる。	豊かな自然環境の保全を行い、地域の環境整備に効果あり。	引き続き維持管理を行うため、多額の予算が必要となる。			継続した整備により自然環境の保全に繋がっているものと認識。	環境政策課 環境対策費	
街路灯強化事業	8	電気使用料 8	細河地区の防犯灯が設置されていない地域に設置した蛍光灯の維持管理を行う。	街路灯の維持管理を継続し、防犯に努める必要がある。	防犯灯がない地域にLED街路灯を継続して利用できた。	夜道の防犯対策に寄与している。LED電球は経済的であり、細河の植木植栽類にやさしい。	地域住民に対する調整。			街路灯の継続的な設置に伴い、夜間通行の安全性を維持することができている。	土木管理課 交通対策費	
細河コミュニティ道路維持管理事業	69	清掃委託料 69	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るため、コミュニティ道路の維持管理を行う。	設置した街路灯の電気代の支払いが必要である。また、雑草や枯葉等で滑ったりして危険である	電気代を支払った。また、急な曇りも滑ることがなくなり、安全に通行出来るようになった。	散歩する人が安全に通行出来る様になった。	維持管理が年々負担に成りつつあるのが、事業が負担なく出来るよう検討が必要			細河コミュニティ道路の清掃等を実施することにより、安全な通行を維持することができている。	土木管理課 道路維持費	
余野川堤防桜植樹事業	100	植栽管理委託料 100	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るため、余野川堤防に桜を植樹する。	夏の猛暑や、葛藤の巻き付けなどでサクらが枯損する。	車窓からの美観がよくなり、細河の魅力が増し、地域の好感度活が上がった。	水辺の細河の魅力が増し、地域の好感度活が上がった。地域の活性化につながっている。	多くの人が快活に探訪できるよう今後も維持管理が必要となり、大塚町や池田市との協働作業が必要となる。			植栽後に除草作業で誤って切断されることもあって、河川管理者との調整が困難なことも問題になっている。また、植栽可能な場所も殆ど無いことから、事業継続が困難な状況にある	公園みどり課 緑化事業費	
地域コミュニティ紙等発行事業	396	補助金 396	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地域住民がどんな事業を実施しているのかがわからないため、活動を知っていたら、関心を高める必要があった。	年2回(7月、1月)発行。部会毎の事業報告や親水公園・グランドゴルフ場・イベント案内・防犯情報など、分かりやすく発信し、地域に関心を持って頂けた。	地域コミュニティ活動の認識や防災の意識を高めている。また、イベントの集客に寄与した。	より充実した内容にするため、マンネリ化を防ぎ新委員の募集をしていく。地域の方が何を考えているのか投稿コーナーを充実させていきたい。			写真が多く、地域密着の内容が充実している。歴史の紹介なども、住民向けだからその内容で評価できる。引き続き地域住民が必要としている情報が何かを考え、改善して欲しい。	広報シティプロモーション課 自治振興費	
ハイキングマップ印刷事業	198	補助金 198	細河の自然に親しみ、健康増進や地域の活性化を図るためのハイキングマップについて、増刷を行う。	前回作成ハイキングマップの在庫が無くなり、施設店舗等のマップ内容に変更があった。	ハイキングマップを3,000枚印刷した。コミュニティ協議会事務局にて配布している。	ハイキングマップを配布することにより、細河の自然に親しみ、健康増進に寄与することができた。	在庫の管理、マップの掲載内容に変更がないかの確認が必要。			今後もハイキングマップの配布を通じて、利用者を獲得し、健康増進に繋げてほしい。	空港・観光課 自治振興費	
細河ふれあい観光推進事業	200	補助金 200	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るため、細河PRイベントを行う。								新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 自治振興費
細河高齢者等配食サービス事業	3,102	補助金 3,102	配食を必要とする高齢者に弁当宅配のサービスを引き続き実施する。同時に、訪問、声かけを行い、高齢者の見守りを行う。	継続事業であり、高齢者の声かけや子育て支援を行う。	安価で美味しく好評のため、計画より902食多くなった。	細河地区は高齢化率35%で毎年上がる中で、見守り、声かけの要請で安心しておいしい弁当を食べてもらっている。子育てが大変な主婦さんにも提供し、子育て支援をする。	配達業務の人材を探している。希望者が年々増える中、協議会予算の配食に占める率が増える、他の事業に支障をきたす。			コロナ禍に伴い、外出控えがちな高齢者への配食に合わせた訪問、声かけを継続して実施していただいた点を高く評価する。	高齢・福祉総務課 自治振興費	
細河地域活性推進事業	2,295	補助金 2,295	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化と、コミュニティ意識の高揚を図るため、「みどりの郷」観光案内所の運営、散策路管理等一連の事業を総合的に行う。	継続事業であり、事務所であるみどりの郷の運営、地産地消の野菜販売、五月山ハイキングコースの維持管理を行う必要がある。	みどりの郷(火曜日は休館)は朝9時から午後4時30分まで開館している。野菜販売は週1回土曜日の朝市を実施。五月山ハイキングコースの草刈り、危険木の撤去を実施し、ハイキングしやすい環境になった。	みどりの郷への訪問者が多く細河の知名度を高め、地域活性化に貢献。ハイキングコース利用者が多く細河の自然を市民に提供し、地域活性化に寄与した。	事務所詰めのボランティアの募集。			来訪者に対し、細河の自然環境や地産地消の野菜を販売することができた。	農政課 自治振興費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

細河ふれあい農園事業	250	補助金	250	細河の遊休地を活用し市民に開放することにより、細河地域の活性化を図るとともに、農作物を通じた世代間の交流を促進し、また、市民が土に触れる喜びや癒しの場を提供する。	農園の草刈などの維持管理が必要である。また、新規農園の拡大を検討している。	市民へ自然に触れる機会の提供ができた。市民農園は満員御礼。	遊休農地の活用により地域の活性化を図れる。自然の中で樹木や果樹との触れあう機会や地域外の人との交流が図れる。	トイレ、駐車場等利用者のマナーの向上。樹木や果樹の剪定講座等勉強会の充実。		農作業を体験することにより、農業への興味関心を誘発することに寄与した。	農政課 自治振興費
細河コミュニティ道路整備事業	1,000	補助金	1,000	細河の自然環境や地産産業等を活用し、地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るため、コミュニティ道路の整備を行う。	継続している事業で舗装工事、街路灯設置工事が完了したが、山道から崖に転落する危険が伴う。	散策する人により伏尾台と細河の交流が進む。転落防止のフェンスが設置され、安全に通行出来る様になった。	細河・伏尾町と伏尾台をつなぐ貴重な通路である。交通事故による国道通行止めとき、路として利用できる。	利用者が幅広い年齢層になり、夜間照明、転落防止柵の設置出入口への警備員の配置等も必要となる。		転落防止柵の設置に伴い、通行の安全性が向上した。	土木管理課 自治振興費
細河の自然を守る事業②	941	補助金	941	里山での竹や駒定枝の炭焼き活動及び駒定枝リサイクルの調査研究を行う。	里山保全活動を継続しているが、効率よく作業をできないか検討した。	里山保全活動では軽トラックをリースし、間伐した木材を運搬し、しいたけの原木と炭、薪に利用している。	豊かな自然環境と竹林や雑木林の間伐による里山の保全を行い、地域の環境整備に効果あり。	保全エリアが広いので会員以外のボランティア募集方法の検討。多額の予算が必要となる。		荒れていた里山の環境改善ができ、間伐材の利用等リサイクル活動も進んでいるが、里山という広いエリアでの事業であり、今後の、予算的な問題について検討の必要があると考える	公園みどり課 自治振興費
ほそごう地域花いっぱい運動支援事業	30	補助金	30	地域と学校が一緒に実施する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を伏尾台地区とともに行う。	継続事業で、伏尾台コミュニティと共に子どもたちが育てた花を細河地区に配る。	継続事業で、伏尾台コミュニティと共に子どもたちが育てた花を細河地区に配る。	地域の特別養護老人ホーム等公的施設の美化。	配った花の管理方法の確立。		小中学校の統廃合を機に、両地域が協働して花いっぱいプロジェクトを提供することで、住民同士の交流進展と地域美化が進むことに期待したい	公園みどり課 自治振興費
体験学習支援連携事業	105	補助金	105	地域と学校との交流を通じた活動を行うことにより、子どもたちの知識や情達の発達・向上を図るとともに、これらの活動を通して、地域への愛着心の涵養を図る。	食育、川遊び、森林の間伐等について、学校と連携した活動が増してくる。	学校授業として、食育、川遊びを体験してもらおうが、新型コロナウイルスの影響で中学生の職場体験学習など中止する事業が出てきた。	自然とのつながりを生徒とともに学習することで、学校授業に寄与した。しかしながら中止事業の発生等で予算金額の未使用分を市に返金する。	地域と学校とのかかわりをさらに深める。		川遊び、農業体験等地域と学校との交流を通して、地域への愛着心が高まった。	教育政策課 自治振興費
細河地域子ども育成事業	300	補助金	300	校区全体で子どもの育成を行い、協議会と子どもが協働して、子どもとのふれあいの場を維持していく。	平成24年度より継続して子ども会活動の支援をしており、子どもが元気な育成する場を提供している。	7月にプール場、11月芋ほり、2月のスケートを中心してイチゴ狩り。子どもの育成に寄与することができた。	子ども会活動の充実を図り地域と子どもや親同士との触れ合いを深める。	細河小学校の廃校に伴い地域子どもとのかわり。		地域コミュニティ推進協議会と校区全体が協働し、子供の育成に繋がるイベントを実施し、子供のふれあいの場の維持に寄与した。	教育センター 自治振興費
グラウンドゴルフ場維持管理事業	150	補助金	150	地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るために設置したグラウンドゴルフ場の維持管理を行う。	敬老会に運営整備を委託していたが規模が大きく高齢者には十分な整備が出来ていなかった。	こまめに管理する事でとても綺麗な状態を維持できるようになった。	使用者や周辺住民からも好評である。	協議会の予算がつかなくなったので、土地を提供していただいていた久安寺に返却をした。		事業完了事業を通して、グラウンドゴルフ場の積極的な活用を図ることができた。	生涯学習推進課 自治振興費
計	9,882			事業提案限度額	10,282千円	次年度繰越金額	400千円				

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

ほろご地域コミュニティ推進協議会（伏尾台地区）

事業名	予算額(千円) 説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における 評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目(目)	
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100 交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課 自治振興費	
安全パトロール実施事業	450 修繕料 72 自動車重量税 7 補助金 371	地域安全パトロールを実施し、地区内の安全・安心の向上を図る。	<p>実施前は小学校の登校時に、主に民生委員等による見守りがあった。平成20年9月より実施し、当初小学校の登校日を中心に、H20年は、1回1時間、1日6回のパトロールからスタートし、H21年は、1日4回に組み直して実施した。</p> <p>H24年は、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻に応じてスケジュールの見直しを行った。H25年度は、1回1時間、1日2～3回のパトロールを実施した。</p> <p>H26年度は、登校予定日、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻の違いに応じて、より細かくパトロールスケジュールの見直しを行い、月曜日から金曜日の間、7時30分から1時間、15時50分から1時間、19時から1時間の1日3回のパトロールを実施した。</p> <p>H27年度以降は、小中一貫校のほそご学園に統合されたことにより、細河地区の中学生、小学生はスクールバスで登下校することになり、主に伏尾台地区の小・中学生の登下校を見守ることになった。</p> <p>朝の登校時に定点立ちを主に行う挨拶運動、下校時に合わせた午後のアナウンスを行う走行によるパトロール、夜間アナウンスが可能な時間帯の走行によるパトロールを継続して行った。</p> <p>H27年10月以降、コミュニティプラザを開設してからは、青パト車の駐車場をプラザの南側に設定できたので、隊員のアクセスが良好になった。</p> <p>H30年、大遼協から提供された青パト車が配備された。同時に、除隊の申し入れが多くなり、隊員補充が全く進まず、2台のパトロール車体制の構想が実現できていない。</p> <p>R1年、隊員の高齢化が進み、80歳を機に除隊の申し出が多くなった。</p>	<p>巡回スケジュールは、日中は、ほそご学園の開校日並びに登校・下校時間に合わせて行い、巡回のみならず定点パトロールと挨拶を実施し、また、夜間の巡回を併せて行うように計画した。安全パトロールは、通年、一回当たり1時間これを実施した。</p> <p>巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするように心がけた。</p> <p>なお、事業開始時から使用している青パト車の整備に、予定外の故障が発生しており、整備費が嵩んだ。さらに、R3年2月、3月と連続してパンクに見舞われたので、安全確保のため、タイヤ4本を交換した。</p>	<p>パトロールを継続して行った結果、空き巣等の防止に繋がりが、防犯カメラ事業との相乗効果も有り、毎年空き巣犯罪"0"を更新できていたが、H27、28年度は侵入盗事件が各1件発生した。また、29年、30年、31年度共に不審者情報が多数回寄せられているため、巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするよう隊員に要請した。</p> <p>朝のパトロールは走行よりも主に定点立ちとし、小中学生を始めとする学生、通勤者らにあいさつ声掛けを積極的に行うことができた。</p> <p>下校時並びに夜間の巡回時には、車載スピーカーを用いた放送により、登校下校時の子供の見守り、戸締まり方法、不審なセールス、アンケート調査への注意、夜間の不法駐車禁止を呼びかけることができた。</p>	<p>隊員の減少と現隊員からの出動の曜日や時間帯の変更の申し出、さらに夕刻以降の乗務希望者が限定されるため、運行スケジュール立案が事務担当者の大きな負担である。</p> <p>運行スケジュールの立案とともに、実施者証の更新講習会の開催手配と、保険加入申込み、車両の整備、燃料補給等などの事務方の処理量が増大している。</p> <p>隊員の高齢化が進み、毎年、80歳を機に除隊の申し出が多くなったので、助手席業務をお願いしている。パトロールにおいて、楽しい事故は全くなく、このまま安全にパトロールができることを願っている。</p>				<p>地域拠点サービスが本格稼働するなど、コロナ禍においても地域での存在意義が増しているものと評価する一方で、コミプラの運営も含め、今後の事業継続に対し、マンパワーの確保が大きな課題となってくるものと認識するところ。</p> <p>日々の地道な活動が、地域の安全を確保している点を評価するとともに、今後も継続的な活動の実施に期待</p>	危機管理課 一般管理費/自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

<p>地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業</p>	<p>2,016 建物賃上料 500 補助金 1,516</p>	<p>地域住民への協議会活動及び地域分権のPRを目的として協議会活動拠点を運営を行う。</p>	<p>コミュニティ推進協議会の活動拠点としての西公園事務所は、伏尾台周回道路沿いで西公園南側と目立つ場所に看板と掲示板を設置して広報活動を行っている。</p> <p>また、西公園事務所は、地域の「防災・防犯委員会」の活動拠点として、会議の他、年末の防犯防火の巡回拠点として活用してもらっている。さらに、地域内に季節の花を飾る活動を行う地区福祉委員会の「花の会」の活動拠点として利用してもらっている。</p> <p>平成27年10月3日に伏尾台コミュニティプラザを開設してその中に協議会事務所機能を移して、フリーサロン、子育て支援ルーム、まちの情報センターの運営を行なった。このプラザ事務所は光ケーブルを引きこピー、ファックス複合機を備えて事務所機能を充実させた。</p> <p>西公園事務所とプラザ内事務所との両方で活動を実施した。西公園事務所は、元来老朽化してた床の傷傷が進行したため、東側の半分の床の張り替えを行なった。</p> <p>平成30年度の伏尾台創生会議2020の事務や打ち合せ、会議なども本事務所、コミプラで行われた。</p> <p>伏尾台地域に入ったすぐの目立つ立地条件のもと、webでのグーグル地図にも「伏尾台コミュニティ推進協議会」と表示され、そのストリートビューには黄色い看板が目立っていたが、強風の台風で落下寸前となったため、直ちに撤去した。</p> <p>平成31年度(R1)は、地域活性化事業の伏尾台 山びこコンサート、落語の開催と事務処理等もコミプラ、本事務所で行なった。夏祭り実行委員会の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コミプラで行われた。</p> <p>コミプラ内の子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名、平成31年度(R1)は7,386名であった。</p>	<p>西公園事務所とプラザ内事務所との両方で協議会活動を実施した。</p> <p>月曜日から金曜日のコミプラの開館日に、3交代でスタッフが留守番を行い、閉館後にホールとトイレの清掃を行い、コミプラの維持管理を行った。</p> <p>本年は、新型コロナウイルス拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用は半減し、プラザ全体で40%程度の減少であった。</p>	<p>コミュニティ推進協議会はもとより、防災・防犯委員会並びに地区福祉の花の会の活動拠点として、それぞれ活用されている。</p> <p>新型コロナウイルス拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なう中、自動体温計とアルコール消毒液を設置し、来場者に使用を促し、安全第一で運営を行なった。</p> <p>伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で4,929名である。子育て支援ルームのみの利用者は、1,155名であり、フリーサロンなどは 3,774名が来訪された。</p> <p>コミプラ内のエアコン1機が故障し、高額の交換作業が発生したが、事務費などの切り詰めで何とかしのぐことができた。</p>	<p>コミプラのフリーサロンの利用者数は例年同様にあることから積極的な利用を図りたい思いがあったが、コロナ感染症の拡大は今後も続くと考えられ、市役所へ出掛けなくて済むキオスク端末の利用は増加傾向を示しており、また、トイレのみの利用も多くなっており、換気と消毒を定期的に行いたい。掃除スタッフの不足と共にコロナ対策が衛生上の懸念として上がってきた。</p> <p>子育て支援ルームの利用は年々減少しており、人口減少で未就園児の絶対数が少ない。社協のファミリーサポート事業の会場として利用できるようにしているが、利用者の増加には結びついていない。幼稚園児との共同利用を考えると、未就園児への安全性の確保が問題となり、コロナ対策上も未就園児限定の利用はしない。</p> <p>プラザ事務所としては、コミュニティプラザがボランティア支援を含む「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、今後ともまちの不動産情報、特に空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。</p> <p>コミプラの留守番役員のスタッフ、現在13名（掃除スタッフ兼務2名）でローテーションを組んでいるが、減少の上、依然として絶対数が不足し、募集を行うも応募が全くないことが、運営上切迫した問題である。</p> <p>複数年度の事業検討として、伏尾台の特色ある公園作りを目指しており、西公園の再整備案とともに、西公園事務所には、遊歩道側に独立したトイレが設置されているので、これを整備して遊歩道側に解放することで、散歩中の人や接する西公園を訪れる地域の方に利用してもらえようしたい。</p>	<p>コロナ禍の下難しい状況が続くが、いろいろな工夫しながらコミュニティの拠点としての期待に応えているものと評価。</p> <p>コミュニティ推進課 自治振興課</p>
<p>コミュニティサロン 設置事業</p>	<p>600 建物賃上料 500 補助金 100</p>	<p>地域の人が立ち寄り、世代を超えた交流の活動場所としてコミュニティサロンを伏尾台コミュニティプラザに設置する。</p>	<p>伏尾台には2つのコミュニティセンターがあるが、利用には事前予約が必要であり、散歩の途中に立ち寄り休憩する処、待ち合わせや談笑する処、急に自治会の役員同士が打ち合わせする際など、気軽に利用できる施設がなかった。</p> <p>平成27年10月伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに調整、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には名簿に記載をお願いした結果、10月3日より平成28年3月31日までの実績で2200名を超えた。</p> <p>平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名で、子育て支援ルームのみの利用者は、2,309名であり、フリーサロンなどは 5,288名が来訪された。</p> <p>里山の植物を紹介しているグループの展覧会場として利用された。</p> <p>総務部の推進事業で、池田市の伏尾台送迎サービス社会実験の会場として10月から12月に利用され、協議会会員がボランティアとして参加した。</p> <p>地域交通の未来を考える公開講座の会場として利用された。</p> <p>宿題カフェ会場として利用されている。</p> <p>夏祭り実行委員会の会議、事務に利用されている。</p> <p>ほそごう学園の地域学習の会場として利用されている。</p> <p>高齢者の居場所つくり意見会の会場として利用した。</p> <p>山びこフェスタの落語の会、音楽会の会場として使用した。</p> <p>令和2年1月より始まった「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスにおいて、送迎の始点、終点のポイントとして機能している。</p>	<p>利用の形態は、日課の散歩の途中で休憩を取る方、待ち合わせやバスの時間待ちを行う方、フリースクールに通う生徒との待ち合わせを行う保護者、趣味の載練などをグループで行う方、自治会やサークル活動の打ち合わせ、小学校、中学校の宿題をグループで行う生徒、談笑するグループ、読書、昼食をする親子、孫と絵本を見る高齢者、買い物帰りに商品を仕分けする方、食事をする学生などまさにフリーサロンとして利用されている。</p> <p>令和2年1月より始まった「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスにおいて、送迎の始点、終点のポイントとして機能している。</p> <p>コロナ感染症の拡大と共に、従前のコミュニティサロンの利用者が大きく減少した。特に会議の類は利用者数を制限した会議をお願いした。</p> <p>その反面、らくらく送迎の利用者が増大してサロン自体の利用者減を補う形になっている。また、キオスク端末の利用が、コロナ禍で外出が控えられているため増加傾向にある。</p>	<p>伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で4,929名である。</p> <p>子育て支援ルームのみの利用者は、約1,155名であり、フリーサロンなどは3,774名が来訪された。</p>	<p>利用者を増やすために、積極的に地域の住民が主催するイベント、講演、各種教室などの企画とともに、一時保育所の運営、高齢者と子どもたちが一緒に夕食を食べる「コミプラキッチン」の運営を行うなどの活動が必要であると考えていたが、今後ともコロナ感染症の拡大に対応すること行継続されると考えられるため、詳細な利用者の増大を図るのではなく、地域の年齢構成を考慮した子供から大人の多世代交流を促進してコミュニティを形成できる、イベント開催を想定する必要がある。</p> <p>また、コミプラ自身が「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、今後はまちの不動産情報や空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。</p>	<p>コロナ禍においても、様々な対策を取りながらサロンとしての機能維持に努められるものと認識。感染状況等の社会環境の変化を敏感にとらえながら、引き続きのコミュニティのつながり強化に期待すること。</p> <p>コミュニティ推進課 自治振興課</p>

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

<p>まちの情報センター運営事業</p>	<p>600 建物借上料 500 補助金 100</p>	<p>地域のあらゆる情報を提供しボランティア活動者に対して情報発信や録音を調整、またコンビニ交付サービス端末を設置したまちの情報センターを伏尾台コミュニティプラザに設置する。</p>	<p>伏尾台にはコミュニティセンターやバス停の掲示板があり、自治会からのお知らせなどが掲示されているが、ボランティアの需要や供給に関する情報収集や提供がなかった。 平成27年10月伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して情報の発信収集並びに録音、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には、名簿に記載をお願いしており、10月3日より平成28年3月31日までの実績で3200名を超えた。 平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名、平成31年度は7,386名で、子育て支援ルームのみの利用者は、2,176名であり、フリーサロンなどへは 5,210名が来訪された。</p>	<p>フリーサロン内の壁を掲示板として活用し、まちの情報を、「地域学校行政」「地域環境」「安心安全」「協議会」「コミプラ」「子育て支援」「各種支援」「ボランティア活動」のカテゴリに分けて種々掲示している。各種の活動紹介の依頼や、ポスターの掲示を願い出られるなど多くのグループに利用されている。 ほそごう学園、フリースクール、地区福祉、社協、池田署、防犯委員会、人権文化交流センター、池田市公益活動促進協議会の広報誌などを展示している。 市のキオスク端末が設置されて、行政証明書の発行手続き、写真印刷やコピーに住民が利用している。 コロナ感染症拡大の影響で、利用者が減少する中、キオスク端末の利用者は増加している。</p>	<p>伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で4,929名である。 子育て支援ルームのみの利用者は、約1,155名であり、フリーサロンなどは3,774名が来訪された。</p>	<p>フリーサロンは、日々は子育て支援ルームに訪れる母子、ほそごう学園の生徒が中心に利用しており、山びこフェスタのイベントの際や自治会、伏尾台創生会、伏尾台夏祭り実行委員会などの会種の際には、伏尾台住民が多く利用されているので、「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、今後もボランティア活動のみでなく、まちの不動産情報や空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。</p>	<p>コロナ禍における新しい情報センターのあり方として、ICTの活用等、積極的な情報発信に期待すること。</p> <p>コミュニティ推進課 自治振興費</p>
<p>子育て支援環境整備事業</p>	<p>780 建物借上料 500 補助金 280</p>	<p>幼児をもつ母親の子育て環境改善とコミュニケーションの場づくりを行うため、スペースの確保と用品等の拡充を図る。</p>	<p>平成22年度より、伏尾台第1コミュニティセンター内の一室を使用し、幼児向けの備品を整備し、乳幼児を育てる母親に気軽に集まれる場所として提供し、これを運営する子育て支援グループを立ち上げた。その後も毎週、部屋が開設される日時を決めて、無料登録制で参加者を募集する方法で運営している。 平成26年度は、会員は67組(134人)、ボランティア会員(12名)で構成され、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて、子育てサロン「フレンズ」を開催した。年間、121組(延べ242人)の利用があった。上記活動の他、七夕とクリスマス時期の年2回、入園前会員宅を訪問して、手作りカードの贈呈、子育ての悩み等の聞き取りを行う活動を、延べ82回(延べ248名)行った。子育てサロン「フレンズ」を卒業した会員による「親子で遊ぶ会」を8月7・12月実施し、23組(延べ46人)の参加があった。 平成27年度は、4月から9月まで32組、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて子育てサロン「フレンズ」を開設した。母子99名、スタッフ72名、延べ171名の利用があった。10月3日より、伏尾台コミュニティプラザが開設されて、子育て支援ルームにて活動が行われ、10月3日から3月末までの半年間では、子育て支援ルームにて、母子1202名、スタッフ241名、延べ1443名の利用があった。 平成28年度は、登録会員数は76組、利用者は母子2,276名・スタッフ393名の延べ2,669名であった。平成29年度は、登録会員数は80組、利用者は母子・スタッフの延べ2,377名であった。 平成29年度は、登録会員数は80組、利用者は母子・スタッフの延べ2,377名であった。 平成30年度は、登録会員数は90組、利用者は母子・スタッフの延べ2,309名であり、平成31年度は、登録会員数は85組、利用者は母子・スタッフの延べ2,176名であり、ママの会・卒業生幼稚園児夏休み集い・AED講習会・ほそごう学園スクールカウンセラーとの交流会2回を開催した。 社協のファミリーサポート事業との連携を進めた。</p>	<p>子育て支援ルーム登録会員数は、幼稚園児となる家庭が多く、70組に減少し、令和2年3月～5月にルームの使用を停止し、その後は人数制限を行ったため、延べ1,155名であるが、母子交流の場として定着し、孤独な子育てから親子を等という目的を達成することができている。 社協の子育てサロンは、コロナ感染症拡大の影響で開催を中断中である。 利用者は年々減少傾向にあり、伏尾台の人口構成からやむを得ないともあるが、利用者を増やすために、社協のファミリーサポート事業との連携して、支援ルームでサポートが行われるが、利用数の増大には至っていない。</p>	<p>協議会主催のフレンズを中心に、ホップ君、自主サークルひよこと連携しての場となっている効果は大であり、細河地区や、池田市内、里帰り母子の利用も増え、ほそごう地域の親子の絆が深まる効果が出ている。 ママの会・卒業生幼稚園児夏休みの集いは中止した。ほそごう学園スクールカウンセラーとの交流会を開催し好評を得た。 月に二度、伏尾台文庫に依頼しての読み聞かせ会が、本に頼りむ機会となって好評であったが、コロナ感染症拡大の防止で中止した。七夕・クリスマスに手作りカードを持参しての恒例の家庭訪問実施は悩み相談の機会となっている。</p>	<p>幼児や未就園児を対象に子育て支援を行っているが、園児や小学校低学年の子供たちの支援を要望される保護者や家族が例年多く、幼稚園児の受け入れを開始したが、乳幼児とは行動・遊具が異なり、乳幼児向け支援室での受け入れは課題が多いため、H30年度半ばから受け入れを中止した。 園児と母親との子育て支援を別途考えるが、支援者が少なく、また現在の新たな未就園児の親子への広報活動並びに新規登録等の事務処理、さらに就園児となった親子との交流、相談で訪れる母親への支援者が全く足りない。 4～5月は、新型コロナウイルス感染症の拡散防止のため中止した。今後の開催方法は、部屋の換気能力を上げることができないため、人数制限を維持するしかなく、他の感染防止策とともに考えなければならない。しかし、人数制限等に関し、働き着い母親たちは、感染防止について関心が薄いように見受けられる。</p>	<p>親子が居心地よく過ごせる場所として地域に定着していると評価。引き続き感染症対策を徹底しながら、コロナ禍でできる取組を実施してほしい。地域の人的資源の発掘に期待している。</p> <p>コミュニティ推進課 子育て支援課 自治振興費</p>
<p>市民レクリエーション大会事業</p>	<p>200 行事報償金 200</p>	<p>地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の高揚に努める。</p>					<p>新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価</p> <p>生涯学習推進課 社会体育振興費</p>

<p>地域コミュニティ紙等発行事業</p>	<p>276 補助金 276</p>	<p>地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。</p>	<p>伏尾台では、広報紙の発行に際し、紙面の作成、印刷、地域全戸配布の全てを、会員のボランティアで実施し、費用は紙とインク代の実費のみであったが、協議会員への負担は極めて大きかった。平成26年度の第12号広報より市の広報紙と共に全戸配布した。さらに、2月末に市の広報紙と共に、平成19年に発足し8年を経過した伏尾台コミュニティ推進協議会の活動の成果を地域の地図を用いて紹介した第13号広報を全戸配布した。さらに伏尾台地域活性化事業で行う年3回の「山びこフェスタ開催案内」ポスター、回覧の広報活動を会員の手作りで行った。平成27年9月末に市の広報紙と共に第14号、新設の伏尾台コミュニティプラザの様子を表紙にした広報を全戸配布した。平成28年2月末に市の広報紙と共に第15号、子育て支援ルームの様子を表紙にした広報を全戸配布した。「伏尾台[子育てにやさしいまち]宣言」の刷新が設置され、ライトアップ機が装着された新田橋の様子をカラー表紙にした広報紙第16号を伏尾台地区の全戸に配布した。平成29年8月26日の第43回伏尾台夏祭りの夕方の様子をカラー表紙にし、平成29年度の本協議会が行なった実施事業をカラー写真で紹介し、下半期の行事予定を記載した広報紙第17号を同10月に伏尾台地区の全戸に配布した。平成29年3月末、平成19年に発足し10年を経過したコミュニティ推進協議会の活動の成果を、青ハトが走る年表の表紙と見開きページの地域地図を用いて紹介し、今後に向けての活動方針と歴代会長のコメントを記載した広報紙第18号を全戸配布した。平成30年10月7日の第39回伏尾台大運動会の様子をカラー表紙にし、平成30年度の本協議会が行なった実施事業をカラー写真で紹介し、下半期の行事予定を記載した広報紙第19号を同10月に伏尾台地区の全戸に配布した。平成31年3月末、平成最後の1～3月に開催した創生会議の土曜祭の会場となった旧伏尾台小学校南校舎を表紙にし、見開きページに協議会の下半期の活動、平成31年度の提案事業、地域創生プランが創生会議から協議会に引き継がれる旨の報告を記載した広報紙第20号を全戸配布した。令和元年11月、第30回やまびこフェスタの落語風景を表紙にして、コミ協の上半期の活動を報告し、下半期の活動予定を広報している広報誌第21号を全戸配布した。令和2年3月末、「はぐのさと」オープン記念祭のコンサート風景を表紙にし、防災、子育て、高齢者の居場所づくり、地域交通インフラ整備、などの活動を広報し、旧伏尾台小学校の跡地活用の具体化をコミ協が進める旨について広報し、令和2年1月より「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスが開始されていることを広報している広報紙第22号を全戸配布した。</p>	<p>ふしおだい第23号は、令和2年12月に全戸配布され、令和2年1月より開始されている「伏尾台送迎サービス」無料のらくらく送迎の降車風景を表紙にして、国交省のMaaS実証実験が開始されたこと、山びこ寄席と音楽ライブ並びに防災訓練が「はぐのさと」で開催されたことを報告し、コミ協の子育て支援ルームの活用を広報している。</p> <p>ふしおだい第24号は、令和3年3月末に全戸配布され、ほごう学園の卒業式のために祝賀りを設置した後に撮影した学園前風景を表紙にし、旧伏尾台小学校の跡地活用の具体化をコミ協が進めた、はぐのさと リサイクルショップの紹介と共に、貸出教室などについて広報し、国交省のMaaS実証実験は終了したが、無料の「伏尾台送迎サービス」は今後も継続して行われることを広報している。</p>	<p>平成29年度から定着した、上半期、下半期の年間2回、カラー版で印刷した全戸配布の広報紙とすることで、協議会活動の紹介やアンケート回収には効果があったが、協議会入会、安全パトロール隊員の応募などの広報に関する効果は見られない。</p> <p>平成30年3月末発行の広報紙第18号は、地域分権制度の10年とこれからの活動を紹介した特別号保存版としており、8年間の活動を紹介した第13号と同様に全戸配布以外に約1500部を余分に印刷しており、協議会活動の紹介紙として活用できている。</p> <p>特に、令和3年3月下旬にほごう学園教職員への地域分権制度と伏尾台地域の活動に関しての講義の機会を得た際にはテキストとして活用できた。</p>	<p>コロナ感染症拡大の最中では、集会やイベントの開催が困難となるが、広報誌を通じての活動の報告は重要であり、e-mail、ホームページ、SNSなどで広報とともに活用できるように考えていきたい</p> <p>令和3年度は、本事業は提案されていないが、地域コミュニティ誌を安価に発行する工夫を行う予定である。</p>	<p>表紙として写真を大きく掲載するのは、目に留まりやすく、デザインとしても優れている。今年度も予算が無い中ではあるが、ホームページなどと連携して住民に除染を届けられる方法を検討してほしい。</p>
<p>伏尾台ホームページ管理事業</p>	<p>24 補助金 24</p>	<p>伏尾台の魅力や伏尾台地区の取り組み状況をHPを通じ発信、HPの更新を行う。</p>	<p>地域コミュニティ推進協議会の活動内容の紹介、イベントの告知等を、広く地域住民に広報するためのホームページが整備されていなかった。</p>	<p>ホームページ「伏尾台で暮らす」(https://fushiodai.dekuras.com/eity-story)のコンテンツを更新して、伏尾台地域の最新情報や協議会活動を地域住民ならびに地域外の人たちにも広く広報することができた。</p>	<p>「伏尾台で暮らす」にアクセスすると、協議会の広報誌の閲覧、イベント情報、協議会の活動を、伏尾台の他の活動グループとともに閲覧することができる。</p>	<p>協議会の活動を担当する部会毎に紹介し、今後の計画や活動予定を広報するコンテンツが作成されていないので、これを整備して充実したホームページにした。</p>	<p>ホームページデザインは、親しみやすく、それぞれのコンテンツも見やすい。引き続き継続的なホームページの更新や改善に努めてほしい。</p>

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

<p>防犯防災啓発事業</p>	<p>846 補助金 846</p>	<p>地域住民の防犯・防災意識を高めるため、体験訓練を行うとともに巡回パトロールを啓発するための用品等を購入する。</p>	<p>伏尾台防災・防犯委員会は、地域の5つの自治会より配分される50円×1200戸以下の予算で運営されている。毎年総合防災訓練は、参加人数が300名程度で自治会からの配分予算では厳しい状況である。(R1年度074戸毎年減少) 平成30年度は、4月21日防犯教室を開催し35名が参加。6月18日大阪北部地震に伴い地域内の安全確認・点検を行った。7月8日、4箇所の防災備蓄倉庫の資機材点検を行った。 8月4日に、災害時安否確認対策として災害時声かけ協力員の登録制度を整備して、88人の登録を得た。 8月25日は、伏尾台夏祭り会場で延べ45名が、無線機を使用して交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。 10月6日に安否確認・避難誘導マニュアル訓練を行い58名の参加を得た。10月19日に普通救命講習受講13名参加。 11月4日はほそごう学園にて9年生全員が学校行事参加し防災総合訓練が行われ350名の参加を得た。11月15日、大阪府警本部交通管制センターの見学会を開催し、23名の参加を得た。 12月27日、29日、30日の年末特別警戒には延べ110名が参加した。 2月2日、大阪府警本部主催の特殊詐欺撲滅特別キャンペーンに参加、18名の参加を得た。 3月2日、安否声かけ協力員とともに合同の阪神淡路での声かけ避難誘導・避難所体験講習会を開催し、60名の参加を得た。 平成31・令和1年度は、4月25日午後7時より防犯教室を開催、45名が参加。 6月2日、防災サイレン鳴動聞き取り訓練に22名参加。 8月3日、災害時避難所開設と運営訓練で59名が参加した。 8月24日は、防災・防犯委員会が伏尾台夏祭り会場で、延べ37名にて交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。 9月19日、消防署にて普通救命講習を9名が受講した。 11月3日は、ほそごう学園にて防災総合訓練が行われ、参加者は450名に達した。ほそごう学園の複数年が全員参加し、細河の消防団の参加し、旧伏小内の国際研修センターのベトナム人の若い男女25名も参加し、地域一帯の防災訓練が実施できた。 12月27日、29日、30日の年末特別警戒に延べ105名が参加した。 R2年2月以降は、コロナ感染症予防のため、会議などを全て中止した。</p>	<p>令和2年度は、コロナ感染症予防のため、会議は書面審査による総会（5月9日）の開催を行った。全ての会議を書面通知に替え、R3年3月定例会のみ、年度末会議として開催した。 訓練活動は、6月21日、資機材の点検使用訓練に12名参加。11月1日に旧伏尾台小学校職員室で、「密にならない避難所運営訓練」を隊員のみ38名で行い、市が備蓄していた間仕切りテントを借用してこれが有効なことを確認し、補助金で購入を予定していた備蓄品として、間仕切りテントを購入した。 住民とほそごう学園生徒との総合防災訓練は、3密を避けるために中止したが、炊き出し用のLPガス窯と寸胴鍋は、予定どおり補助金にて購入した。 啓発活動として、12月29日と30日20時から50分間、伏尾台地域の年末警戒パトロールを、密にならないよう分散して延55人で実施した。</p>	<p>令和2年度は、コロナ感染症予防のため、会議は書面中心であり、訓練は少人数で2種のみであり、年末警戒パトロールは屋外であったので実施した。「密にならない避難所運営訓練」を行い、間仕切りテントが有効なことを確認し、備蓄品として購入できたことが本年度の唯一最大の効果であった。</p>	<p>コロナ感染症は変異株の拡大が今後も継続していくと予測され、今後とも容易に空気感染するとの認識で予防を行う必要があると考えられる。 一方、総合防災訓練時の引率リーダーの養成のために、普通救命講習と備蓄資機材の使用訓練や見学会などの要望に応えられない状態が続く、災害時の安否声かけができる体制の確立のために不可欠な近所づきあいを深める活動ができない現状をどう解決するかが問われる。 また、地域の安全を高年齢と共に考えて貰えるように、ほそごう学園の生徒が地域とのイベントに参加できるよう計画するも、学園側も生徒の安全を最優先とするため、実施の目的が立たないのが現状である。</p>		<p>コロナ禍において、地域の防犯・防災啓発に一体となって取り組んでいる点及び災害時に備えた備品整備を高く評価するとともに、本事業のより一層の自助・共助の推進に期待</p>	<p>危機管理課 自治振興費</p>
<p>地域行事等活動促進事業</p>	<p>150 補助金 150</p>	<p>行事を通して住民間の交流拡大に寄与するため、イベント開催の支援を行う。</p>						<p>新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価</p>	<p>空港・観光課 自治振興費</p>
<p>伏尾台地区活性化事業</p>	<p>768 補助金 768</p>	<p>地域住民を対象としたミニコンサートなどのイベントを実施し地域の活性化を図る。</p>	<p>前年度の3月上旬に予定した落語の会を新型コロナウイルス感染症の拡散防止のため中止して以来、本年度前期も引き続き、季節を感じられるイベントとして地域に「ふしおたい山びこフェスタ」と認知され定着している。 平成28年度は、野外コンサート1回、室内コンサート3回、小児科専門医との座談会1回、落語の会1回を開催した。 平成29年度は、室内コンサート3回、小児科専門医との座談会1回、落語の会2回を開催した。 平成30年度は、室内コンサート2回、落語の会2回を開催した。 平成31年度は、室内コンサート2回、落語の会1回、屋外コンサート1回を開催した。 これまで31回の山びこフェスタを開催した。</p>	<p>その入室に際し、人物特定、検温、手のアルコール消毒を行った。また、高座には透明ビニールによる間仕切りを用いた。 11月2日（日）午後から旧伏尾台小学校職員室で、福留敬とアブサント室内合奏団（演奏者7人）による第3回音楽ライブを行った。 このイベントも前回同様に事前予約を行い、入室に際し、人物特定、検温、手のアルコール消毒を行い、座席間隔を取りマスク着用で着席してもらった。</p>	<p>10月25日 「落語の会」1.5時間 55人 11月2日 「音楽ライブ」1.5時間 55人 第32回の寄席開催に際して、落語セット（見台、膝隠し、めくり、小拍子）を購入して使用し、今後の開催に備えることができた。 第33回ライブの開催直前に、ステージピアノ、キーボードスタンド、ライブ音響セットを購入し使用し、今後の開催に備えることができた。 広報誌のとおり、落語、コンサート、それぞれ1回の開催であったが、盛会であり、地域住民の親しい並びに交流を深めることができた。 今回の会場を伏尾小南校舎としたので、終了後にボプラ学園、フリースクールの紹介と見学会を行い、見識を深めてもらうことができた。</p>	<p>例年通り、参加者は異口同音に伏尾台で生で音楽や落語が楽しめて良かったと言ひ、継続要望が多かったが、本年度も参加者にボランティアスタッフを呼びかけ、応募が全くなかった。 例年は、広報の仕方や音楽のジャンルで参加される方の顔ぶれが異なり、参加人数が異なり、天候に左右されやすいことなど集客に課題が多いが、コロナ感染症対策のため、人数制限の事前予約制で掲示板に掲載するのみの広報を行ったところ、10日程度で定員の50名に到達した。 地域住民の親しい並びに交流を深めることができ、定着して楽しみにされている方が増加している中、新型コロナウイルス感染症の拡散防止のため中止し、開催回数が半減したため、今後の開催方法を模索する必要がある。</p>		<p>感染症対策をしつかり行った中でイベントが開催されていた。今後も伏尾地区の活性化に向けた取り組みを積極的に行ってほしい。</p>	<p>空港・観光課 自治振興費</p>

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和2年度執行）

地域イベント備品整備事業	2,216	補助金	2,216	旧伏尾台小学校南校舎の1階並びに2階の9教室と配膳室を使用して、ほそごう地域における多世代交流施設「ほそごう」として活用する際など、校舎や運動場で、地域住民が夏祭り、運動会、音楽会、ワークショップなどの各種イベントを開催する場合、その開催を容易に行えるよう種々のイベントに共通して必要な備品が整備されていなかった。	夏祭り、運動会、音楽会、ワークショップなどのイベントが必要となる、設営が容易なワンタッチテント、折り畳み式の長机や椅子、音響機器などを購入整備した。	旧伏尾台小学校校舎や運動場で、地域内交流イベント開催を援助する準備が完了した。よって、貸出を行い、地域内の多世代交流を増進して地域コミュニティの推進を図ることが可能になった。	コロナ感染症拡大の防止期間中でイベント自体の発案が無いので、この時期を利用して、管理場所の整備、備品台帳の作成、貸出し規則の制定、管理責任者の選定などを早急に行う必要がある。	適切な管理のもと、長期的に利用できるように期待	空港・観光課 自治振興費	
高齢者の居場所づくり事業	200	補助金	200	高齢者同士が一緒に夕食を楽しめる環境を提供して、高齢者らの交流を促進し、町全体のコミュニケーション能力の向上を図る。				新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	高齢・福祉総務課 自治振興費	
伏尾台創生会議2020宣言広報事業	25	補助金	25	伏尾台創生会議2020で採択された伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言を広報するため、新吉田橋のライトアップとサイン設備を維持管理する。	市の公募により平成28年1月に組織された伏尾台創生会議2020は、平成28年3月26日に伏尾台地区再生のための提言を市に提出するとともに、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言を行なった。この宣言を聞いた伏尾台住民が、伏尾台の入り口である「新吉田橋」のライトアップと上記の宣言を広報するサイン設備を寄附してくださることになり、平成28年11月末に設備が完成した。市への寄付設備の贈呈が行われたが、11月からの電気代などの維持管理はコミュニティ推進協議会が行うことになった。	「新吉田橋」のライトアップ装置は、コンピュータ制御によるLEDライト設備で、予め設定された日没から夜明けの夜間のみ点灯されるため、比較的安価な電気代で維持できた。また、住民の手で、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言が書かれた横断幕を点検することができた。退色は少しいるが、汚れが目立つようになっている。	新吉田橋の欄干に設けられた横断幕は、国道423号線の北行き車線から容易に視認できるため、伏尾台地区があること、子育てにやさしいまち宣言した地区であることを国道往來者に広報できている。昨年、1丁目に居住し、11月に出産した30代夫婦は、横断幕を見て地域を見学し、保育所などが近いことから居住を決めたという。また、夕方から夜間に帰宅する伏尾台住民は、ライトアップされた新吉田橋を見ることで、我が家に帰ってきたことを実感できると、好評である。	協議会としては、電気代の支払いのみの管理しかできない。住民にとっては、横断幕の点検はできるが、その清掃や修繕などは不可能である。特に、横断幕を取り付けている部分の橋の欄干がかなり汚れている。また、ライトアップ装置の点検維持も住民には行うことができないが、故障等は発生していない。	新吉田橋のライトアップにより、伏尾台の付加価値を高めることに加え、より良い景観の確保ができたと考える。	土木管理課 自治振興費
伏尾台地域送迎サービス事業	655	補助金	655	主に自宅とバス停間の送迎を行い、交通弱者の地域内への積極的な外出及び帰宅を支援し、地域内交流の推進を図る。	伏尾台の住民、特に自家用車などを持たない、高齢で病気で運転ができない、伏尾台センターへ買い物や通院で通う場合に徒歩以外に交通手段を持たないなどの地域内交通弱者に対するの救済手段が全くなかった。そこで、「伏尾台送迎サービス運営委員会」を組織したボランティアグループが、軽自動車車両のリース代、燃料費、各種保険に要する費用の一部を市のアクティブシニア補助金制度で負担し、令和2年1月から3月に、伏尾台地域内限定で無料無償で送迎する「伏尾台らくらく送迎」が行われた。	送迎車両の運転を無償ボランティアが行う「伏尾台送迎サービス運営委員会」を協議会内に取り込むことで、軽自動車車両のリース代、燃料費、各種保険に要する費用の全額を協議会が事業費として負担することで、「伏尾台らくらく送迎」を令和2年4月以降も継続実施した。コロナ禍の最中のスタートとなったが、地域住民に送迎サービスの再開を告知して、事前個人登録制とし、伏尾台コミュニティプラザに申し込みの電話をかけることで、送迎サービスを受けられるようになった。送迎車両は、リースを行う軽自動車を利用する。送迎ドライバーは、予め事務局に乗務可能な日時を登録しておき、利用者の申し込み日時とのマッチングを図り、送迎を行った。一方で、本事業の今後の継続を考えると、国土省の日本版MaaS実証実験の実施地に組み入れられるよう、市の担当部局に令和2年6月末までに立候補をお願いした結果、選択されて令和2年12月～令和3年2月に実験が実施された。	MaaS実証実験中にキャンペーンの効果もあり、登録者数は190名を超えた。送迎申込回数は、別紙のとおり、本年度内で520回を超え、送迎人数は800人を超えた。なお、令和3年7月末時点で、登録者数は200名を超え、送迎申込回数は800回を超え、送迎人数は1070人を超えた。送迎サービスのリピーターたちには、伏尾台での生活に欠かせないサービスであるとの評価をいただいた。	無償ボランティアドライバーは、事業のスタート時から2名が健康上の理由からリタイアしたが、幸い2名の補充が叶い現在に至り、現在10名である。平均年齢75歳のドライバーが、平均年齢80歳の登録者を送迎しており、本事業が地域に不可欠な事業となった今、登録者数は増加傾向にあり、当然平均年齢が上昇する中、送迎ドライバーの確保とともにその平均年齢を60代に引き下げるよう努力する必要がある。伏尾台地域内限定で無料無償で送迎する「伏尾台らくらく送迎」を、地域の高齢化率が年々上昇する中で、幸うじて実施できている。なんと協議会で事業を維持している間に、市が事業主体として予算化し、地域の団体に事業委託する形態の事業、有料有償の「伏尾台らくらく送迎」事業化を検討していただきたい。	登録者数・送迎人数が増加し、本事業が地域に不可欠な事業となっている。	交通道路課 自治振興費
ほそごう地域花いっぱい運動支援事業	30	補助金	30	地域と学校が一緒に実施する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を細河地区とともに行う。	地区福祉委員会並びにほそごう地域コミュニティ推進協議会（細河地区）と共同して、ほそごう学園が行う地域花いっぱい運動、7年生と3年生がハンジューなどを育てて、大きくなった苗を地域の学校、保育所、老人ホームなどに配り、やさしい環境作りを行う運動を支援していた。大阪府の補助金が打ち切られたため不足分を補う必要がある。	必要金額を細河と伏尾台で2分して負担することができた。本年度もハンジュー、ピオラのプラグ苗を約1000株を育成用土、肥料等を用いて、3年生と7年生の生徒が共同して予定どおり育成することができた。育成したハンジュー、ピオラは、令和2年12月17日に、贈呈出荷式をほそごう学園で行い、地域の学校、保育所、老人ホーム、コマラなど17施設に配り、また、地域内の歩道の花壇に植え替えるなど、やさしい環境作りを行うことができた。	ほそごう学園、地域の地区福祉委員会並びにコミュニティ推進協議会が全て共同して、3年生と7年生が行う学校、保育所、老人ホームなどへの花の贈呈活動を支援することができ、地域全体の活動として定着してきた。	義務教育学校のほそごう学園とともに、地域全体の活動としての意義が高まるため、今後とも継続して支援したい。	公園みどり課 自治振興費	
計	9,936			事業提案限度額 14,376千円 次年度繰越金額 4,440千円						
合計	105,496			事業提案限度額 144,925千円 次年度繰越金額 39,429千円						